

継続的な改善活動のために！

2013

在学生・卒業生・教職員

KIT総合アンケート調査結果 [報告書 (抜粋)]

学校法人 金沢工業大学

KIT総合アンケート調査結果について

学長 石川 憲一

周知のように、'70年代を境目として我が国における大学を始めとする高等教育は大きく変化し、最近に至ると修学年齢世代の約50%が大学・短大へと進学する所謂「大学教育のユニバーサル化現象」が生じてきております。このような状況は一面においては、資源小国である我が国にとって人材と言う『財』を然るべく育成し、国民の知的水準を向上することは望ましいことではあります。一方では卒業生の質的保証や当該大学に対する満足度等に関しては、従来から不明な点が多いのが現状であります。

金沢工業大学は、開学以来47年の歴史を着実に刻み、'12年4月より工学部、情報フロンティア学部、環境・建築学部、バイオ・化学部、から成る4学部14学科体制を有する理工系総合大学に移行しております。このような展開の中にあって、'95年度以来実践して参りました教育改革の成果の内、外部評価の一環として'02年度には機械系並びに材料系、'03年度には環境系並びに建築系、'05年度には電気系、'08年度には化学系の教育プログラムに対して『日本技術者教育認定機構：JABEE』の認定を受け、加えて'12年度に日本高等教育評価機構が実施した大学機関別認証評価の判定結果として、「金沢工業大学は、公益財団法人日本高等教育評価機構が定める大学評価基準を満たしている。」と認定されました。これからは、全ての教育プログラムのJABEE認定を目指すと共に、日本経営品質賞等の視点やメジャーの異なる外部評価を受ける予定であります。そして、'03年度に文部科学省が実施いたしました『特色ある大学教育支援プログラム：GP』に「工学設計教育とその課外活動環境」が採択されたことを受けて、更に本学教育改革を推進させるために、'96年並びに'02～'12年に引き続いて在学生・卒業生・教職員の各位に対して8種類のアンケートを依頼致しました。

通常、この種のアンケートは自己点検・自己評価の下に行われる訳ですが、本学では第三者である(有)アイ・ポイントにアンケートの設計から調査結果の評価並びに分析に至るまで全てを依頼いたしましたので、より客観性のある報告書になり得たものと考えております。

本アンケートはこれからも継続して実施すると共に、今回得られた結果を踏まえて本学の工学教育・技術者教育へフィードバックしながら、卒業生・修了生の質的保証や在学生の更なる満足度の向上に資することに致したく思っておりますので、忌憚のないご意見をお寄せいただければ幸いです。

最後になりましたが、本アンケートにご協力いただきました関係各位に対しまして、衷心より感謝申し上げる次第であります。

目次

※本報告書(抜粋)のページ番号は、報告書(全文)の目次に対応しているため、連動しておりません。

<1>	本調査の全体像	1
<2>	在学生、卒業・修了生の基本属性	7
<3>	在学中の目的・目標意識	11
<4>	大学に対する満足度	17
<5>	授業・学習支援の評価	33
<6>	教職員と大学の改善取り組み状況の評価	59
<7>	KIT-IDEALSに関して	67
<8>	卒業時の能力	77
<9>	卒業・修了生アンケートの分析結果	83
<10>	新入生アンケートの分析結果	91
<11>	教職員アンケートの分析結果	107
<12>	全体のまとめ	121
<13>	フリーアンサー集	141
<14>	調査票見本	267

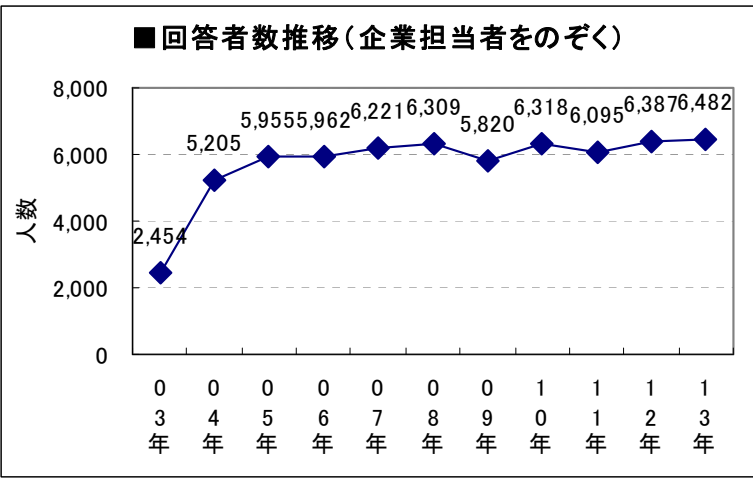
<1-1> 調査の目的と概略

■ 調査目的

- 本調査は金沢工業大学(以下、KIT)を取り囲む関係者の中から、「在学生(新入生～卒業・修了直前)」「卒業・修了生」「教員」「職員」を対象として、KITに対する評価や満足度を聞き、過去の回答と比較しながら現状を把握することを主目的としている。
- そして、上記の各層が「KITをどのように見ているか?」「各々の見方にはどのような違いがあるのか?」「以前とどのように変わっているのか?」といった基礎的な情報を把握し、今後の学校運営、広報の検討に活用できるようとりまとめている。
- 本調査は2003年より実施しており、今回が11回目となる。同一内容で比較できる設問に関しては時系列変化で分析している。

■ 調査方法

調査時期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2013年2月～4月に実施。 ・ 2005年の調査より、在学生への調査期間を年度当初(4月)から年度末(2月)に変更している。
調査方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「在学生」は学内で配布、「教職員」はメールで配信し、回収ボックスで回収した。「卒業・修了生」は郵送によって配布、回収した。 ・ すべて『無記名式』とした。
回収数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の全回収数は6,482サンプルであった。 ・ 属性別の回収数は下記の通り。
調査主体	学校法人 金沢工業大学
集計分析	(有)アイ・ポイント



■ 年度別回収数

対象者	調査時点での属性	03年 回収数	04年 回収数	05年 回収数	06年 回収数	07年 回収数	08年 回収数	09年 回収数	10年 回収数	11年 回収数	12年 回収数	13年 回収数	学科体制・ 備考
新入生	入学直後	724	1,672	1,610	1,747	1,642	1,652	1,568	1,723	1,607	1,745	1,886	新新学科(4学部、14学科)
1年次生	1年次終了時点	106	1,007	1,379	1,364	1,505	1,461	1,369	1,293	1,411	1,299	1,562	
2年次生	2年次終了時点	49	792	1,533	1,313	1,267	1,455	1,146	1,185	1,022	1,321	1,059	
3年次生	3年次終了時点	106	449	441	599	768	793	643	760	781	756	741	新学科(4学部、14学科)
卒業・修了直前	卒業・修了直前	976	914	610	549	669	664	711	960	808	873	829	
卒業・修了生	卒業・修了生	163	107	97	80	90	57	110	137	149	146	144	
教員	在職中の教員	143	133	151	157	136	118	118	112	115	108	118	—
職員	在職中の職員	187	131	134	153	144	109	155	148	202	139	143	—
企業担当者	卒業生が就職した企業	実施せず	実施せず	485	実施せず	実施せず	660	実施せず	実施せず	686	実施せず	実施せず	—
合計(企業担当者除く)		2,454	5,205	5,955	5,962	6,221	6,309	5,820	6,318	6,095	6,387	6,482	

■集計に関して

分野	注意点
無回答に関して	<ul style="list-style-type: none"> ・ 無回答はすべて集計から除外した。 ・ 割合を見る分析、加重平均を見る分析ともに、無回答は除外して集計した。
加重平均に関して	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各調査項目を属性毎に比較するため、加重平均値を多く活用している。 ・ 今回の調査では、選択肢を「そう思う～どちらかといえばそう思う～どちらかといえばそう思わない～そう思わない」などのように4択式で構成した。なお、「あてはまらない、分からない」は無回答として処理した。 ・ 加重平均は上記の選択肢に、+10点、+5点、-5点、-10点を掛けて回答者数で除して算出した。従って、最高点が10点で最低点がマイナス10点となる。 ・ 「あてはまらない、分からない」「無回答」は回答者数に含めていない。
グラフに関して	<ul style="list-style-type: none"> ・ 折れ線グラフは主に時系列変化を見る際に利用されるが、この報告書では加重平均を属性毎に比較する際に本来の棒グラフでは見にくくなるため、折れ線グラフで表現しているものもある。

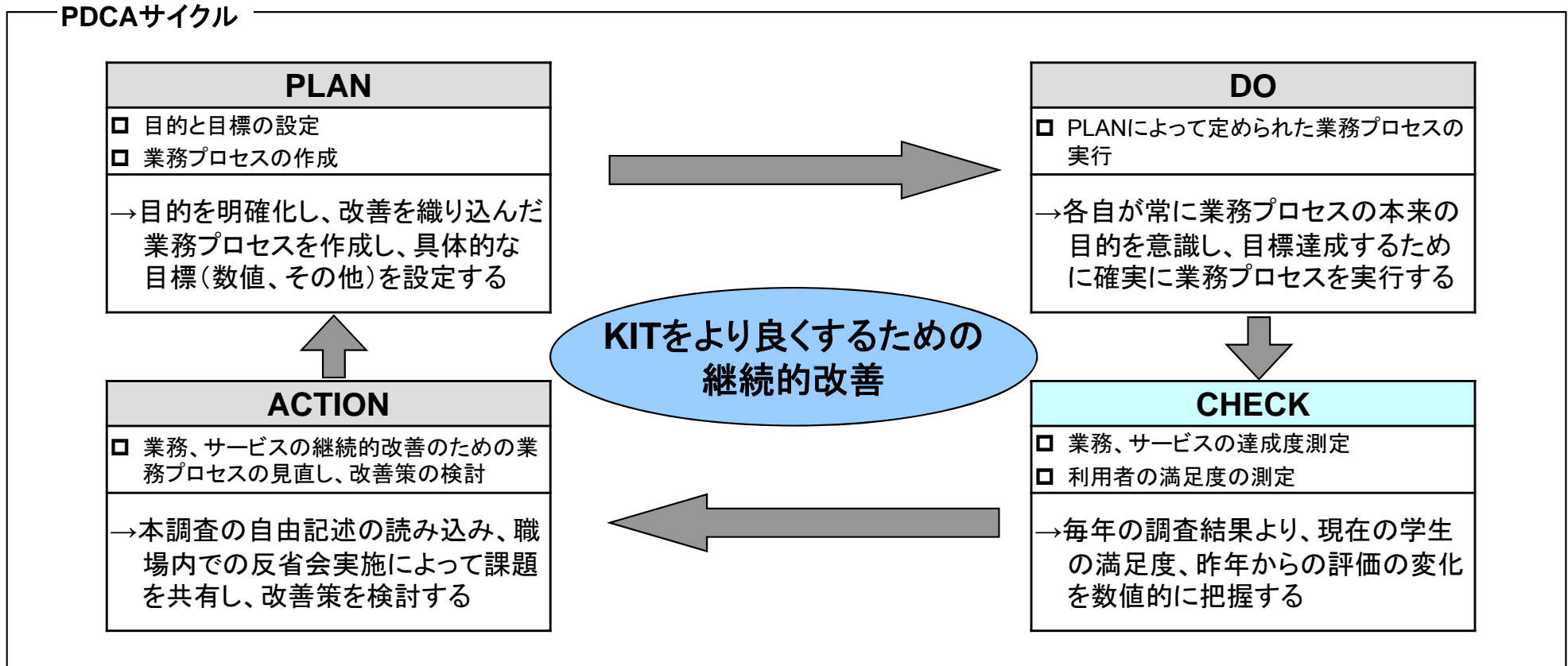
■回収率

属性	配布数	回収数	回収率
新入生	1,909	1,886	98.8%
1年次生	1,761	1,562	88.7%
2年次生	1,592	1,059	66.5%
3年次生	1,593	741	46.5%
卒・修直前	1,625	829	51.0%
在学生計	8,480	6,077	71.7%
卒業生	1,527	144	9.4%
教員	342	118	34.5%
職員	331	143	43.2%
全体計	10,680	6,482	60.7%

<1-2> 調査の位置づけ

■ PDCAサイクルの中での本報告書の位置づけ

本報告書は前出の目的に基づいて作成されているが、具体的なPDCAサイクルの中では下記のように位置づけられる。



- 今回の調査によって得られた「KIT関係者のKITに対する評価、満足度」は、上記「PDCAサイクル」の中の「CHECKステップ」に相当する。
- 「PDCAサイクル」は一時的なものではなく、継続的な改善を目指すものである。従って「他の施設や機能と比較して評価がどうであったか？」という相対的な結果を見るよりも、「昨年と比較して評価がどう変化したのか?」「自らが設定した目標は達成したのか?」といった変化を見る方が、よりPDCAのサイクルに則した見方ができるものと思われる。
- また、今後の改善策を検討するためには「自由記述」が有効であり、多くのヒントが含まれているものと思われる。
- 本調査企画は昨年から改善を重ねて内容を見直しているため、質問方法、選択肢などが異なる部分もあるが、今後はこれらの違いをできるだけ少なくし、より比較検討が行いやすい内容にしていく予定である。

<2-1> 在学生・卒業生の基本属性

■ 所属学部、出身高校の課程、入学に至った入試

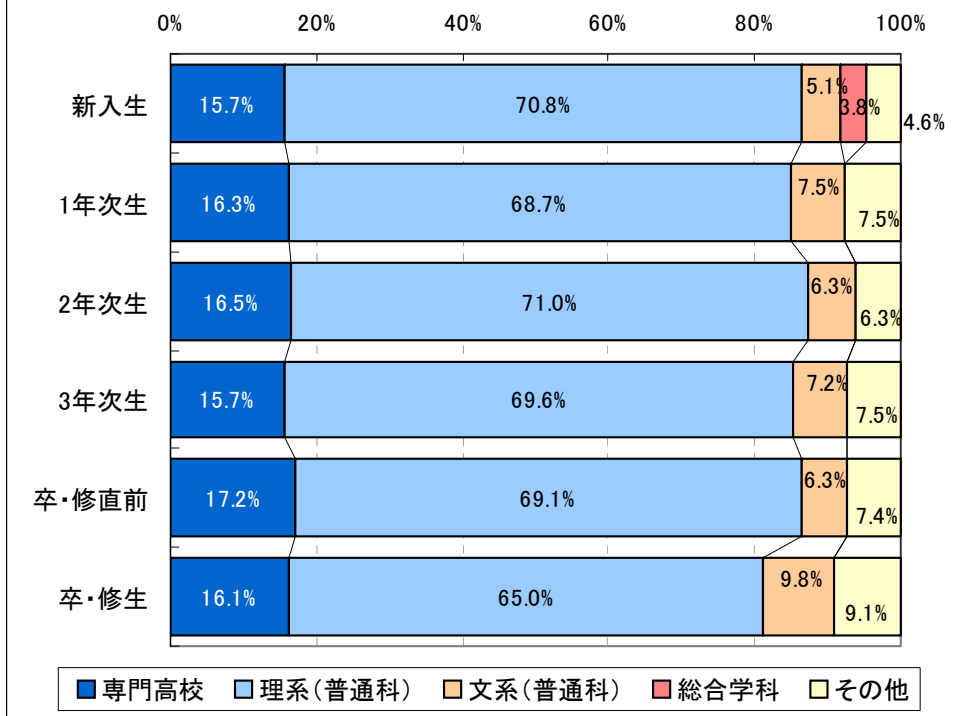
■ 在学生・卒業生の所属学部

(単位:人)

属性	工学部	情報フロンティア学部	環境・建築学部	バイオ・化学部	無回答	全体
新入生	1,033	288	355	202	8	1,886
1年次生	829	263	296	172	2	1,562

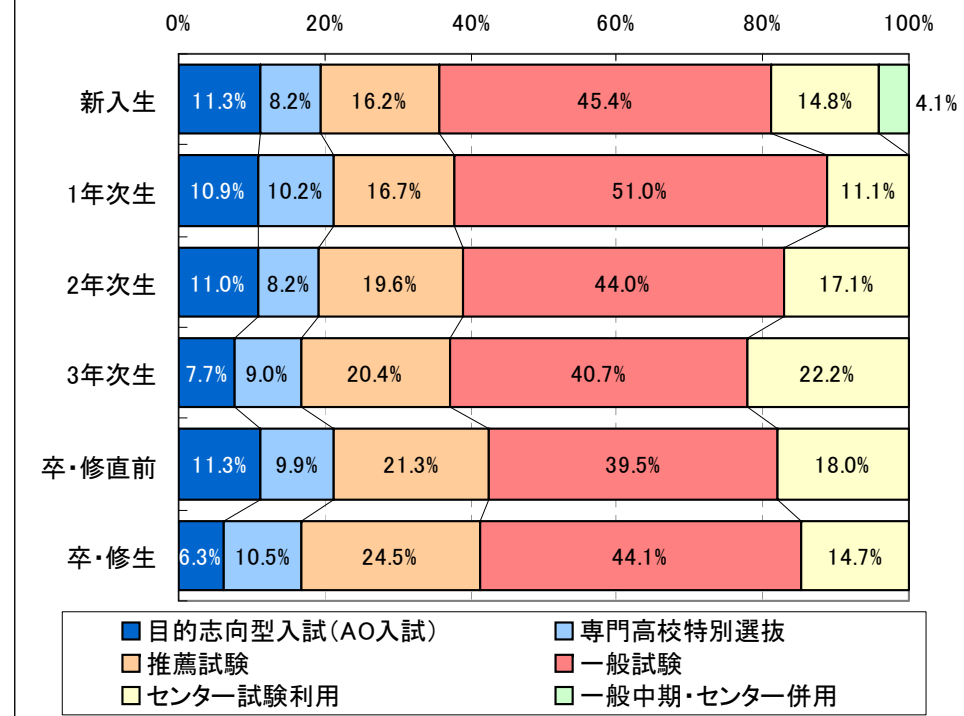
属性	工学部	情報学部	環境・建築学部	バイオ・化学部	大学院	無回答	全体
2年次生	366	342	249	100	—	2	1,059
3年次生	317	186	109	126	—	3	741
卒・修直前	341	219	85	87	92	5	829
卒・修	62	25	25	11	20	1	144

■ 出身高校の課程



※「総合学科」は「新入生」のみに聞いている。

■ 入学に至った入試



※「推薦試験」は「卒・修直前」と「卒・修生」では「推薦試験・女子特別選抜」となっている。

※「一般中期・センター併用」は「新入生」のみに聞いている。

■在学生の出身地域

■在学生の出身地域

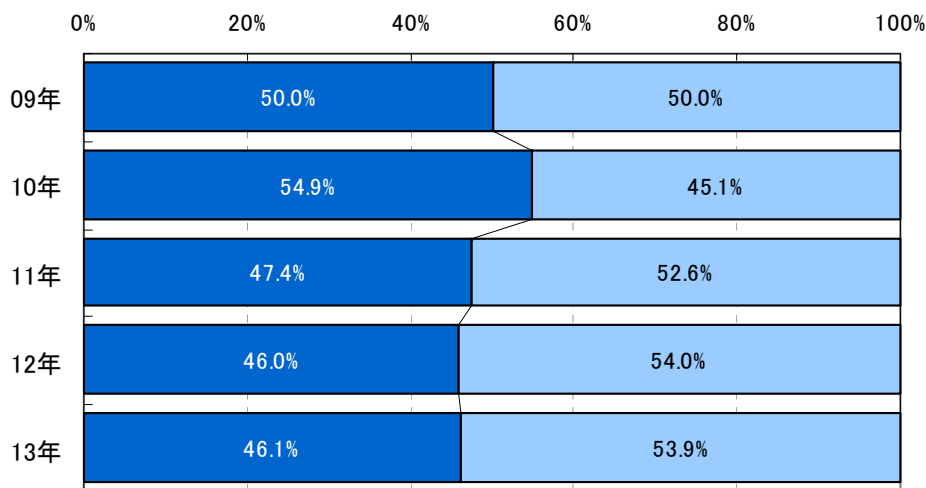
	北海道・東北	関東	甲信越	北陸	東海	関西	中国・四国	九州・沖縄	全体
1年次生	69	66	231	707	235	165	56	25	1,554
	4.4%	4.2%	14.9%	45.5%	15.1%	10.6%	3.6%	1.6%	100.0%
2年次生	36	38	161	507	142	111	47	15	1,057
	3.4%	3.6%	15.2%	48.0%	13.4%	10.5%	4.4%	1.4%	100.0%
3年次生	23	13	113	373	88	75	37	16	738
	3.1%	1.8%	15.3%	50.5%	11.9%	10.2%	5.0%	2.2%	100.0%
卒・修直前	32	28	131	404	102	73	34	21	825
	3.9%	3.4%	15.9%	49.0%	12.4%	8.8%	4.1%	2.5%	100.0%
全体	160	145	636	1991	567	424	174	77	4,174
	3.8%	3.5%	15.2%	47.7%	13.6%	10.2%	4.2%	1.8%	100.0%

<3-1> 在学中の目的・目標意識

■現在の目的・目標意識

- 大学生活の中で、目的・目標を持っているかどうかを質問したところ、46.1%が「目標あり」、53.9%が「目標なし」であり、「目標なし」の方が7.8ポイント高かった。
- 経年変化を見ると、「目標あり」は前回から0.1ポイント増加していたもののほぼ横這いで、これまでで最高だった2010年と比べると8.8ポイント低かった。
- 学年別・年度別のグラフで2013年の属性別比較をすると、「新入生」では「目標あり」が73.2%であったが、その他の学年はすべて5割以下となっており、在学生の中では「3年次生」が48.1%とわずかに高かった。
- 学年別に経年変化を見ると、「1年次生」と「2年次生」はわずかに前年を上回っていたが、その他の学年は前年より低下していた。特に「3年次生」「卒・修直前」は2010年から継続的に低下しており、高学年で「目的・目標」を見失うようになる傾向が見えた。

■現在の大学生活での目的・目標意識（在学生）

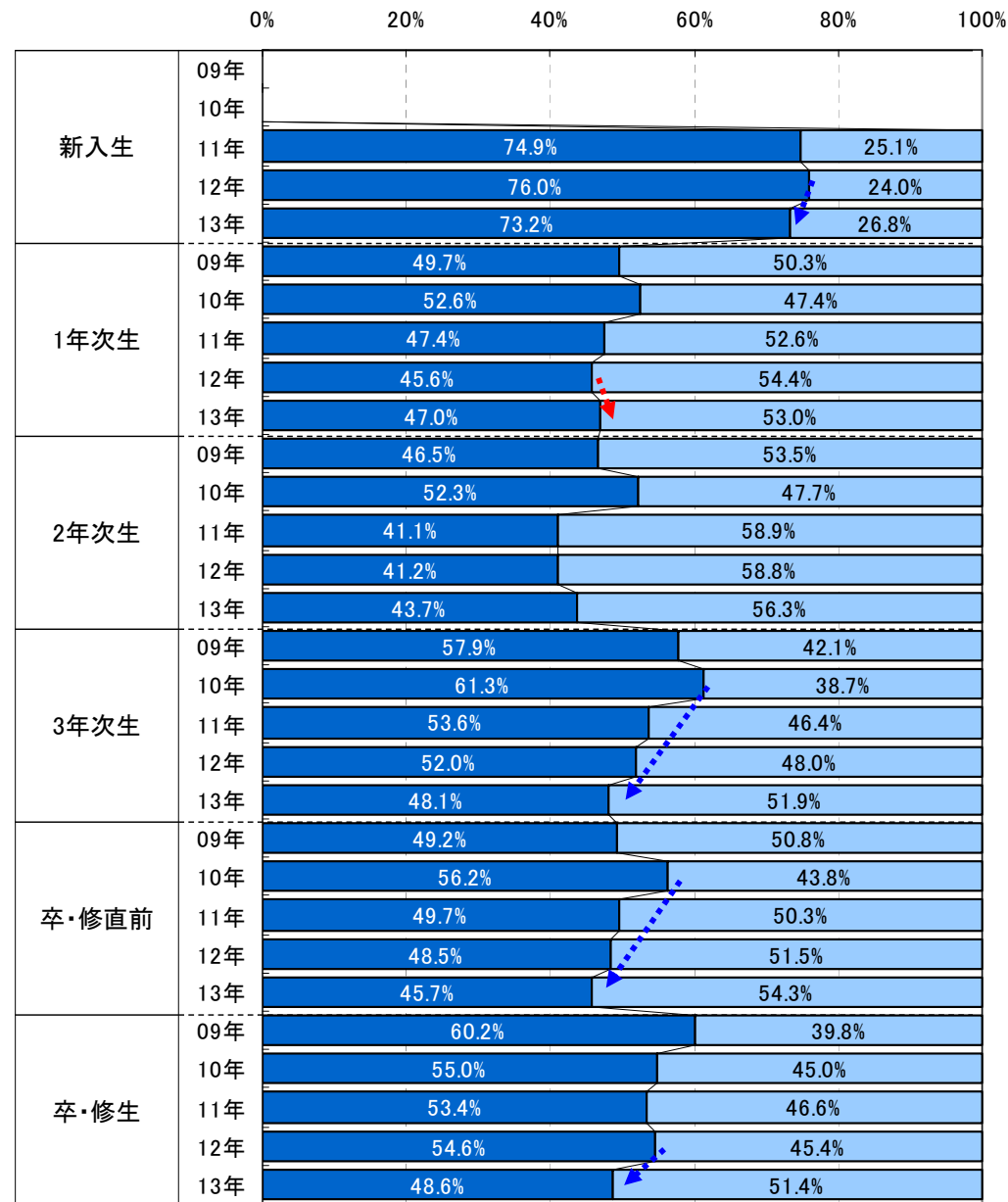


※この質問は「新入生」「在学生」「卒業生」に聞いているが、上記グラフは「在学生(大学院を含む)」のみを対象として比較している。

■ 目標あり

■ 目標なし

■現在の大学生活での目的・目標意識
学年別・年度別比較

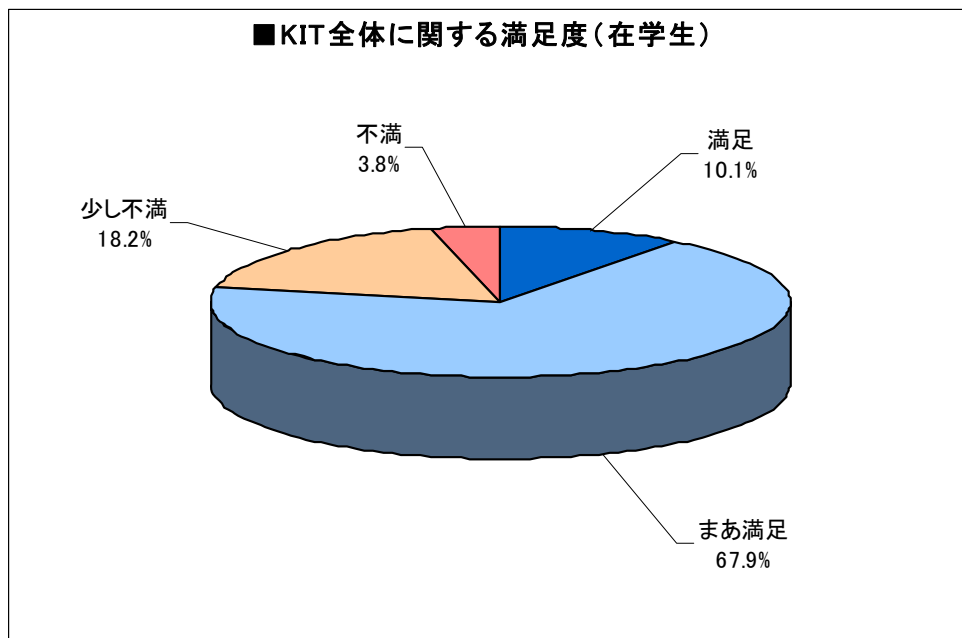


※上記グラフでは、「新入生」には今回から「大学に入ってこれがやりたいという目的・目標を持っていますか?」と聞いている。

<4-1> KITの総合満足度

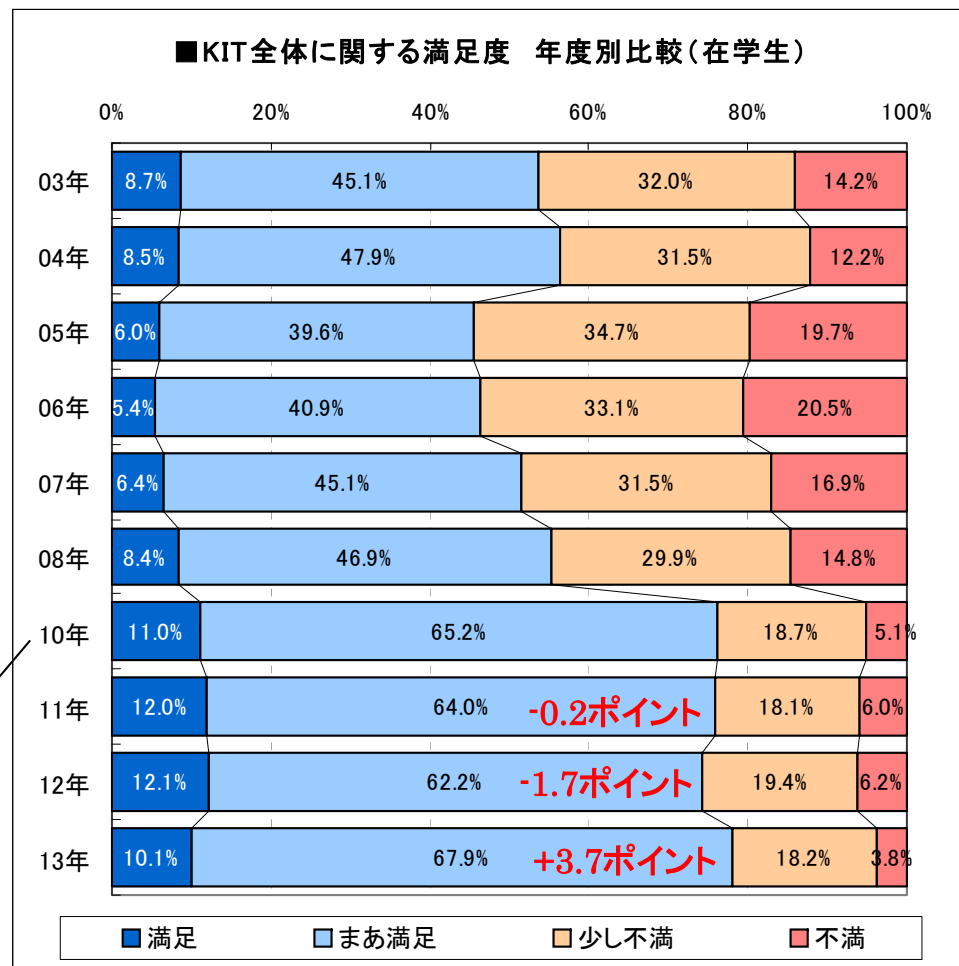
■KIT全体に関する満足度

- 最も基本的な指標である「KIT全体に関する満足度」では、「満足」が10.1%、「まあ満足」が67.9%であり、合わせると78.0%が満足と答えていた。
- 総合満足度は、03年から08年の6度の調査では、「今のKITに満足していますか?」と聞いていたが、09年には同様の質問はしていない。そして、10年から現在には、「KIT全体に関する満足度」という聞き方に変更した。質問文が変わった影響も出るかと思われるが、参考のため年度別比較を行った。
- 「KITに満足している」という回答は、05年から08年にかけてわずかずつ増加していた。2010年以降は聞き方が変わったことが影響していると思われるが、満足という回答が一気に増加していた。そして、10年から12年にかけてはわずかに満足度は低下傾向にあったが、今回は前年を3.7ポイント上回っており、10年以降で最も満足度が高くなっていた。



満足している(78.0%) > 不満を持っている(22.0%)

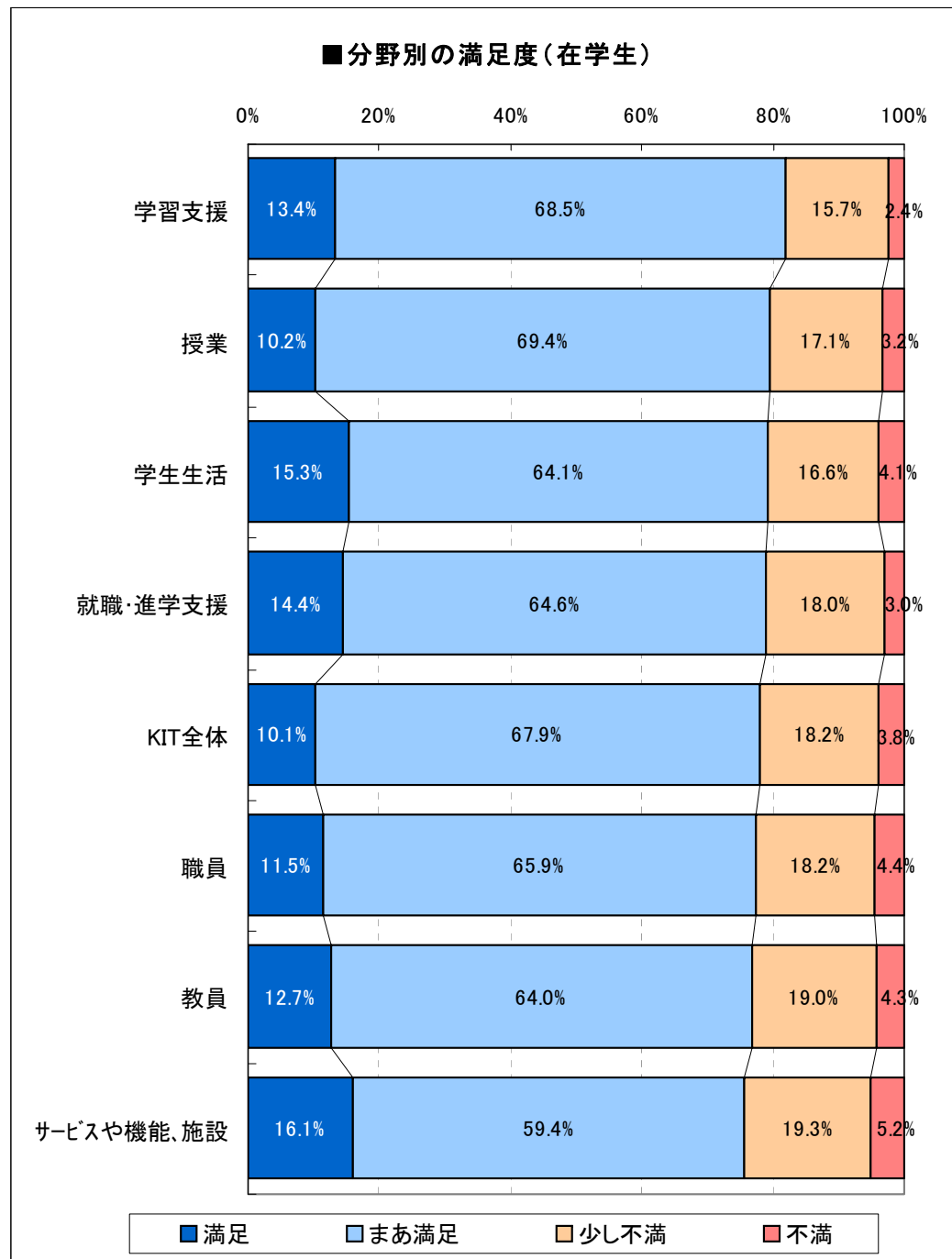
10年から聞き方が
変わっている



<4-2>分野別の満足度

■分野別満足度

- 在学生の各分野の満足度を聞いたところ、右のグラフのようになった。
- 最も満足度が高かったのは「学習支援」であり、81.9%が満足と答えており、満足が8割を越えたのは「学習支援」だけであった。次いで「授業」が79.6%であり、学習面での満足度は高かった。
- 上記に次いで「学生生活」が79.4%、「就職・進学支援」が79.0%と続いていた。
- 一方、最も満足度が低かったのは「サービスや機能、施設」であり、満足しているという肯定的な回答は75.5%であった。ただし、「満足」だけを見ると16.1%と最も多く、一部の学生の満足度は高いということが分かった。
- 「教員」「職員」に対する満足度は他と比べるとやや低く、各々23.3%、22.6%が不満を持っていた。

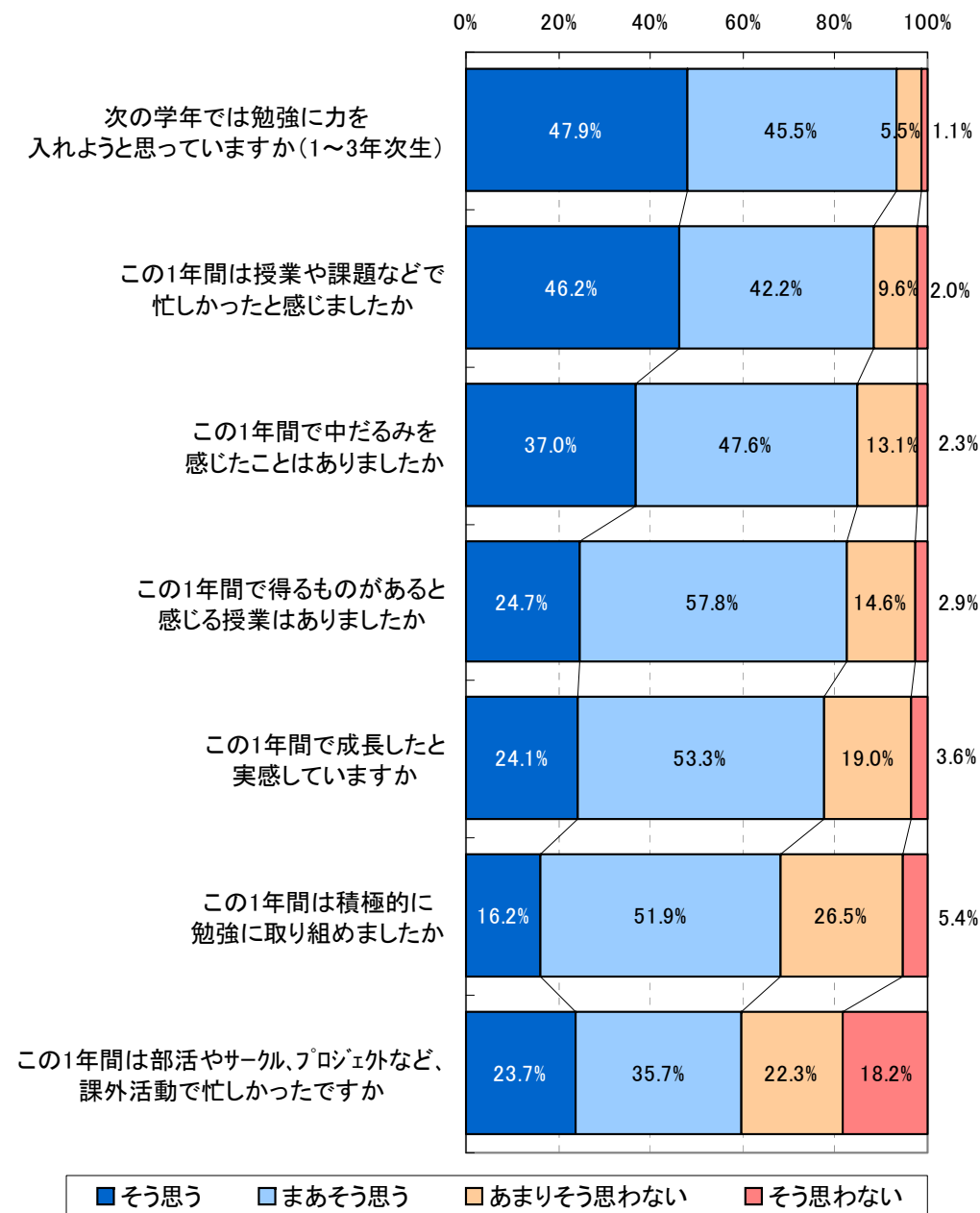


<4-3>この1年間の振り返り

■この1年間の振り返り

- 「この1年間の振り返り」を「そう思う」と「まあそう思う」の肯定的な意見の合計で比べると「次の学年では勉強に力を入れようと思っていますか」では93.4%が肯定的な意見であり、次の年への強い意気込みが感じられた。
- 上記に対して「この1年間は積極的に勉強に取り組めましたか」では、肯定的な意見が68.1%であった。
- 「この1年間は授業や課題などで忙しかったと感じましたか」では88.4%が肯定的な意見であったが、「中だるみを感じたことはありませんでしたか」でも84.6%が肯定的な意見であり、忙しいと感じながらも中だるみを感じている様子が見えられた。
- 「この1年間は部活やサークル、プロジェクトなど、課外活動で忙しかったですか」では肯定的な意見が59.4%と最も少なかったが、「そう思う」が23.7%に対して、「そう思わない」も18.2%と両極端の回答が多く、学生間の温度差の違いが感じられる。

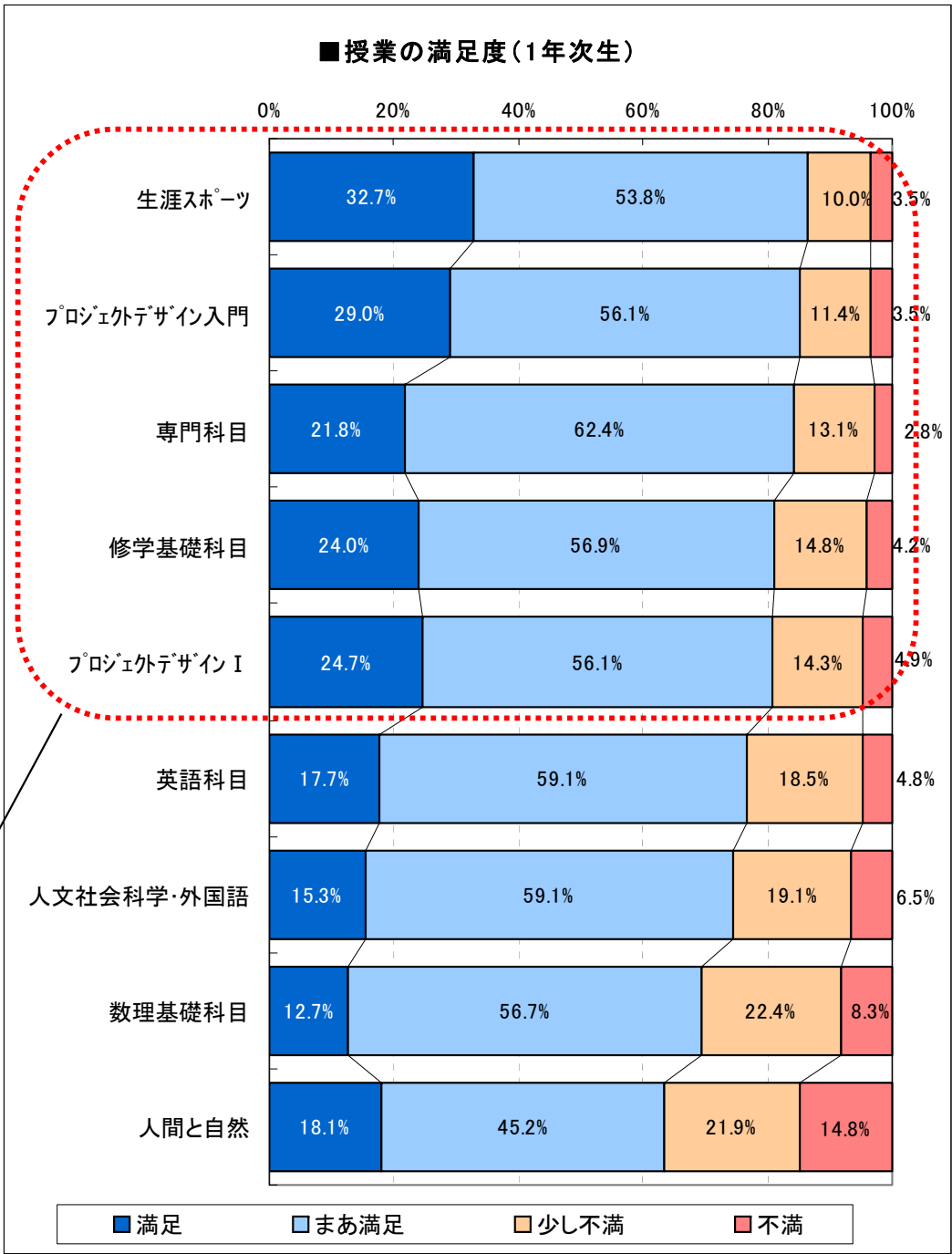
■この1年間の振り返り(在學生)



<5-1> 授業の評価

■ 授業の評価 1年次生

- 授業の構成が学年によって異なるため、今回より学年別に集計を行っている。
- 「1年次生」では「満足」と「まあ満足」の合計が8割以上を占めていたのは5科目であり、最も満足度が高かったのは「生涯スポーツ」の86.5%であった。
- 上記に次いで「プロジェクトデザイン入門」(85.1%)、「専門科目」(84.2%)、「修学基礎科目」(80.9%)、「プロジェクトデザイン I」(80.8%)と続いていた。
- 最も満足度が低かったのは「人間と自然」の63.3%であり、次いで「数理基礎科目」「人文社会科学・外国語」「英語科目」と続いております、基礎的な科目や一般教養科目の満足度が低い傾向が見られた。

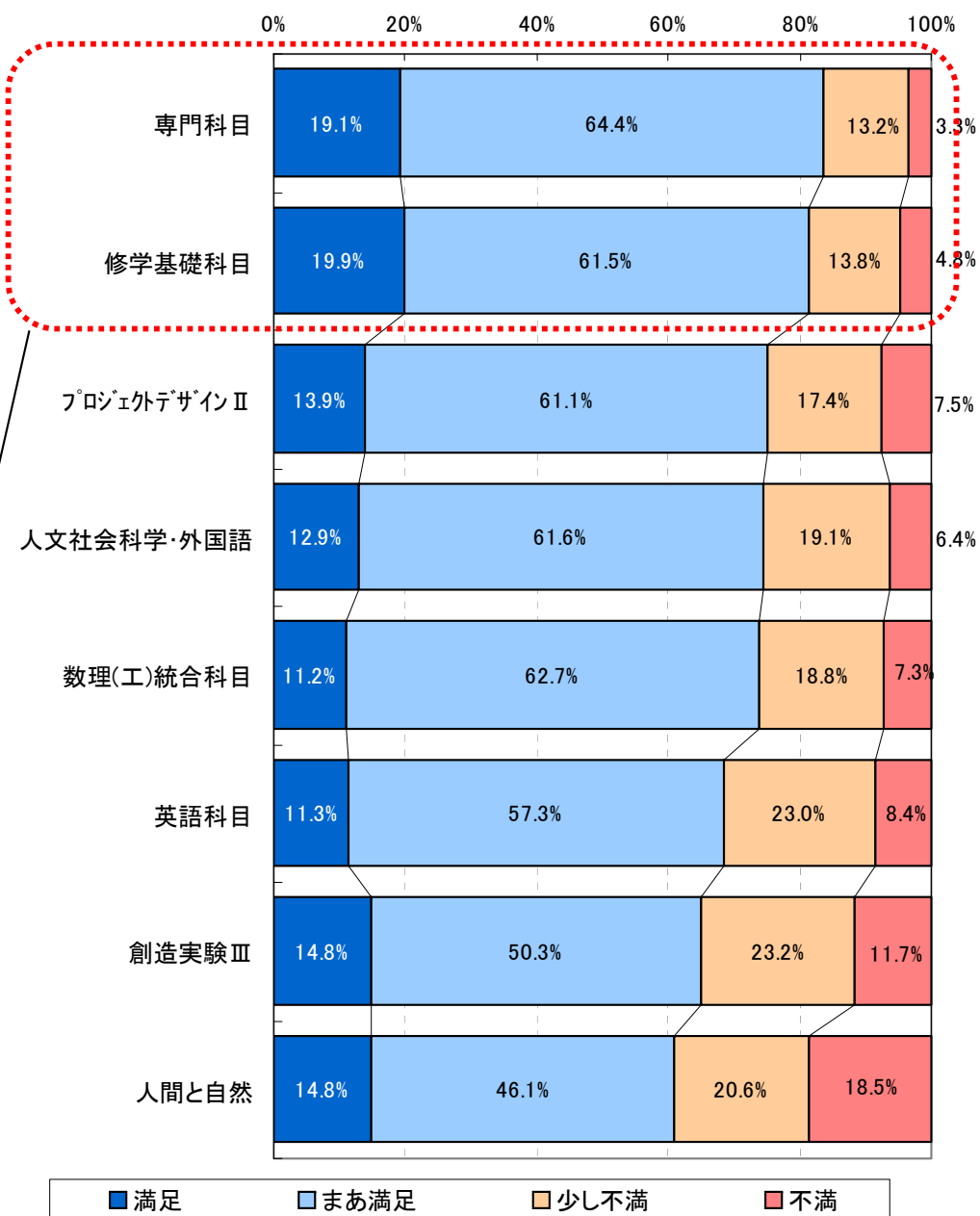


■授業の評価 2年次生

- 「2年次生」では「専門科目」で83.5%と満足度が最も高く、「修学基礎科目」が81.4%で続いており、この2科目で満足という回答が8割を超えていた。
- 一方、最も満足度が低かったのは「人間と自然」の60.9%であり、「創造実験Ⅲ」「英語科目」と続いていた。
- 専門系の科目の満足度はやはり高かったが、「創造実験Ⅲ」のように専門系でも低いものもあり、一般的な科目や教養科目ばかりが低いというわけではなかった。

満足している層が
8割以上

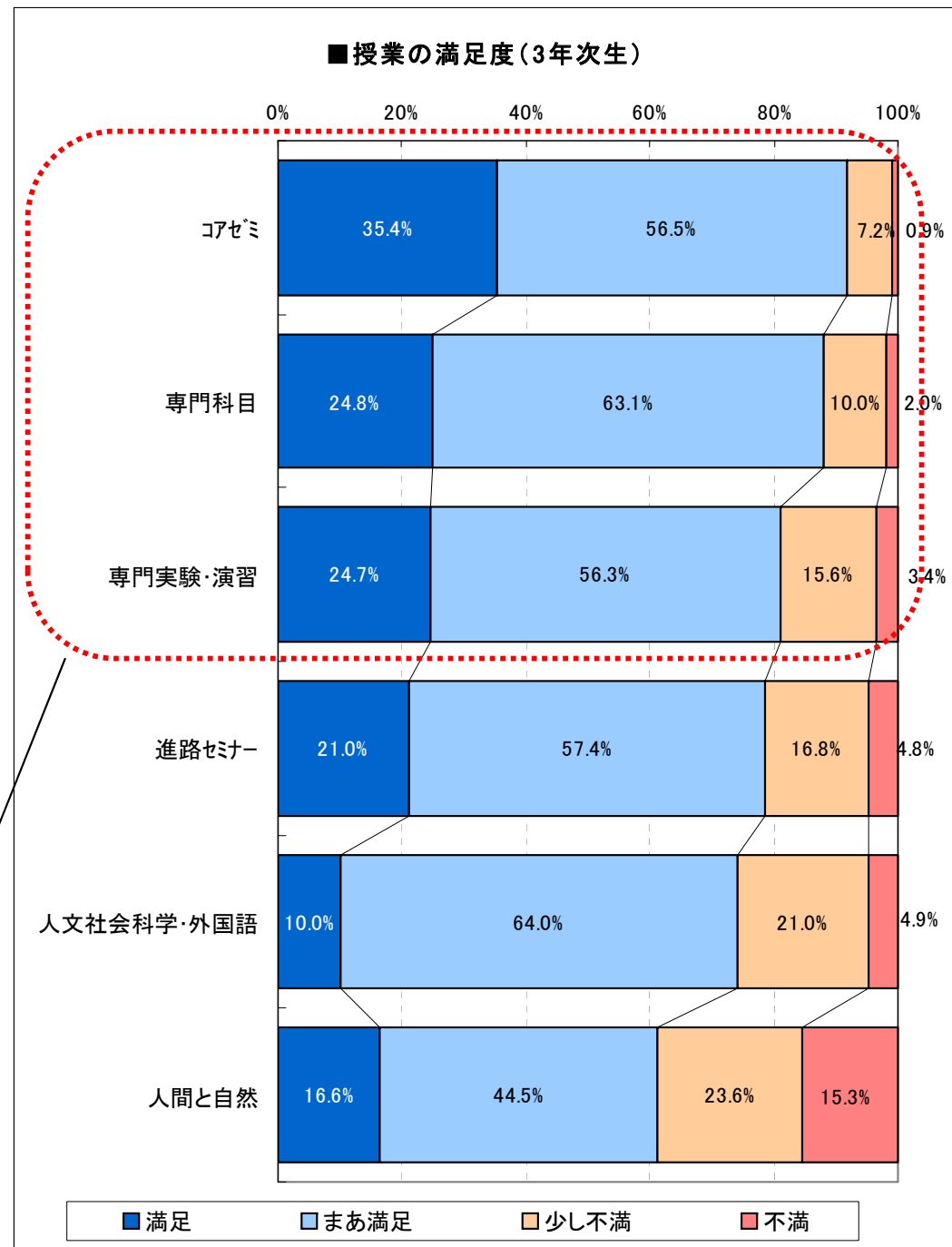
■授業の満足度(2年次生)



■授業の評価 3年次生

- 「3年次生」は6科目だけとなるが、半数の3科目は8割以上が満足していると答えていた。
- 最も満足度が高かったのは「コアゼミ」で、満足しているという肯定的な回答が91.9%と非常に高かった。次いで、「専門科目」で87.9%、「専門実験・演習」で81.0%となっていた。
- 一方、最も満足度が低かったのは「人間と自然」の61.1%であり、他の科目と比べて低さが目立っていた。そして、「人文社会科学・外国語」が続いており、一般教養科目の満足度が低くなっていた。

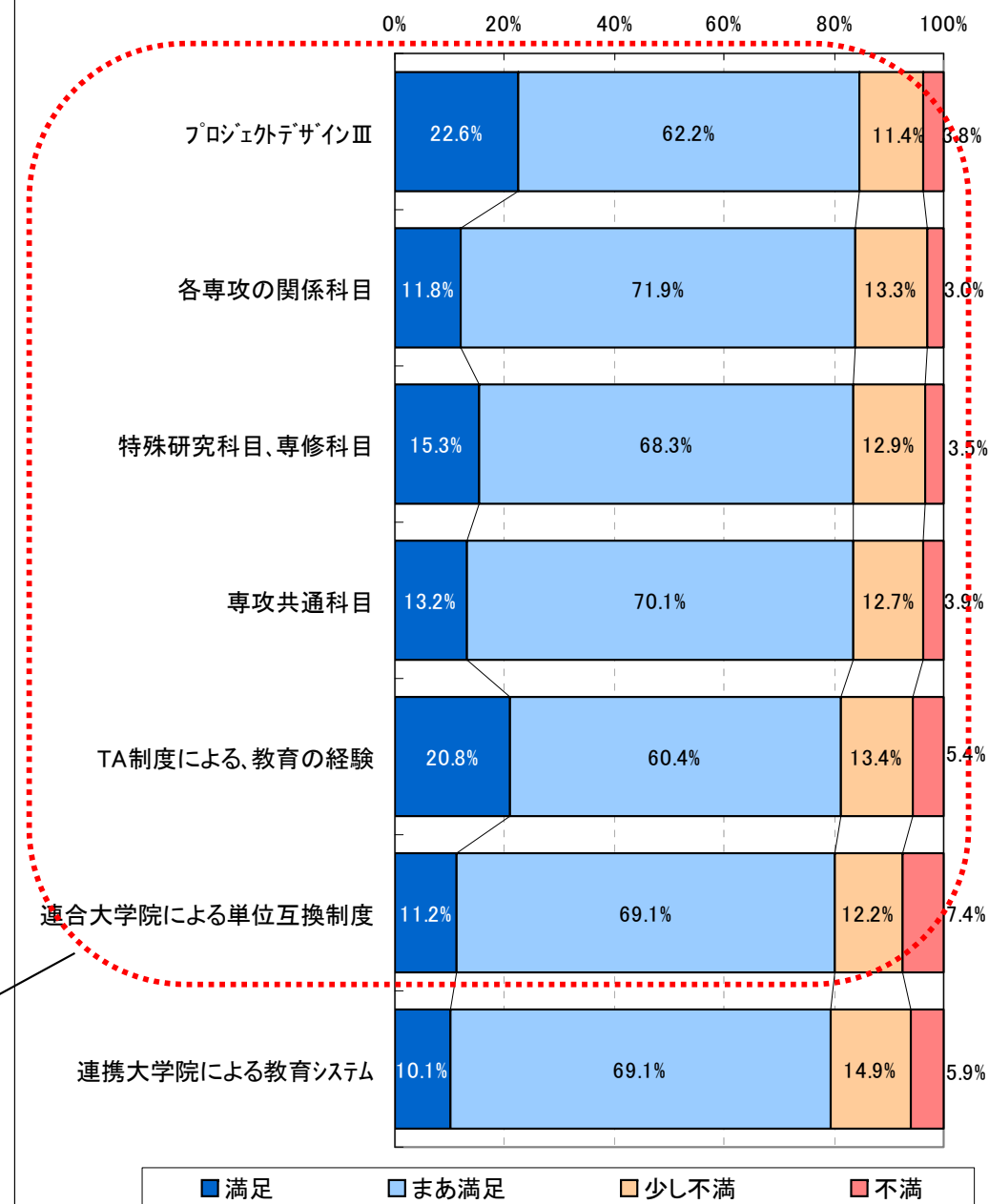
満足している層が
8割以上



■授業の評価 卒業・修了直前

- 「卒・修直前」は7科目の評価であるが、「プロジェクトデザインⅢ」だけが「4年次生」の授業となり、それ以外は大学院生だけの授業となる。
- 「4年次生」の授業である「プロジェクトデザインⅢ」は84.8%が満足と答えており、満足度は高かった。
- 大学院生の授業まで含めると、「連携大学院による教育システム」以外は8割以上が満足と答えており、全体的に満足度は高いと言える。
- 大学院生の授業で最も満足度が高かったのは「各専攻の関係科目」であり、「特殊研究科目、専修科目」「専攻共通科目」と続いていた。

■授業の満足度(卒業・修了直前)



満足している層が
8割以上

※「プロジェクトデザインⅢ」以外は大学院の授業となる。

<5-2> 授業の仕組みの評価

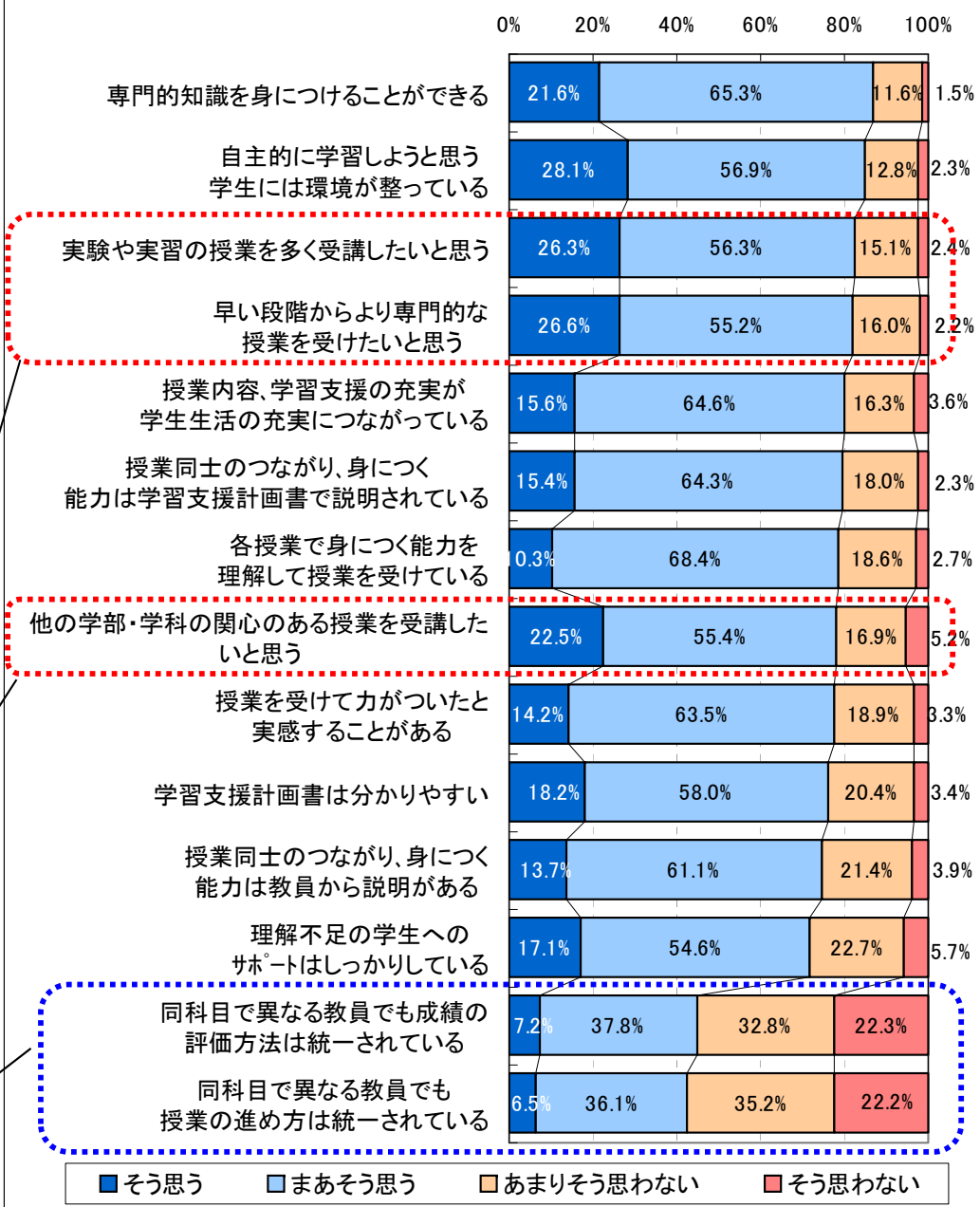
■ 授業の仕組みの評価

- 授業の仕組みに関する評価では、現状の評価を聞く質問と要望を聞く質問が混在しているが、現状の評価に関して「そう思う」と「まあそう思う」の合計で比較すると、「専門的知識を身につけることができる」の評価が最も高く、86.9%が肯定的な意見であった。
- 上記に次いで「自主的に学習しようと思う学生には環境が整っている」「授業内容、学習支援の充実が学生生活の充実につながっている」「授業同士のつながり、身につく能力は学習支援計画書で説明されている」などの項目で肯定的な意見が8割程度となっていた。
- 要望を聞く質問は「実験や実習の授業を多く受講したいと思う」「早い段階からより専門的な授業を受けたいと思う」「他の学部・学科の関心のある授業を受講したいと思う」の3項目であるが、いずれも8割程度が肯定的な回答をしており、これらの点に対する要望は強いと言える。
- 一方、評価が低かったのは「同科目で異なる教員でも授業の進め方は統一されている」と「同科目で異なる教員でも成績の評価方法は統一されている」の2項目であり、これらに対する肯定的な回答は半数以下で、他の項目と比べると低さが目立っていた。

要望を聞く質問

「同科目で異なる教員」の対応に大きな不満がある

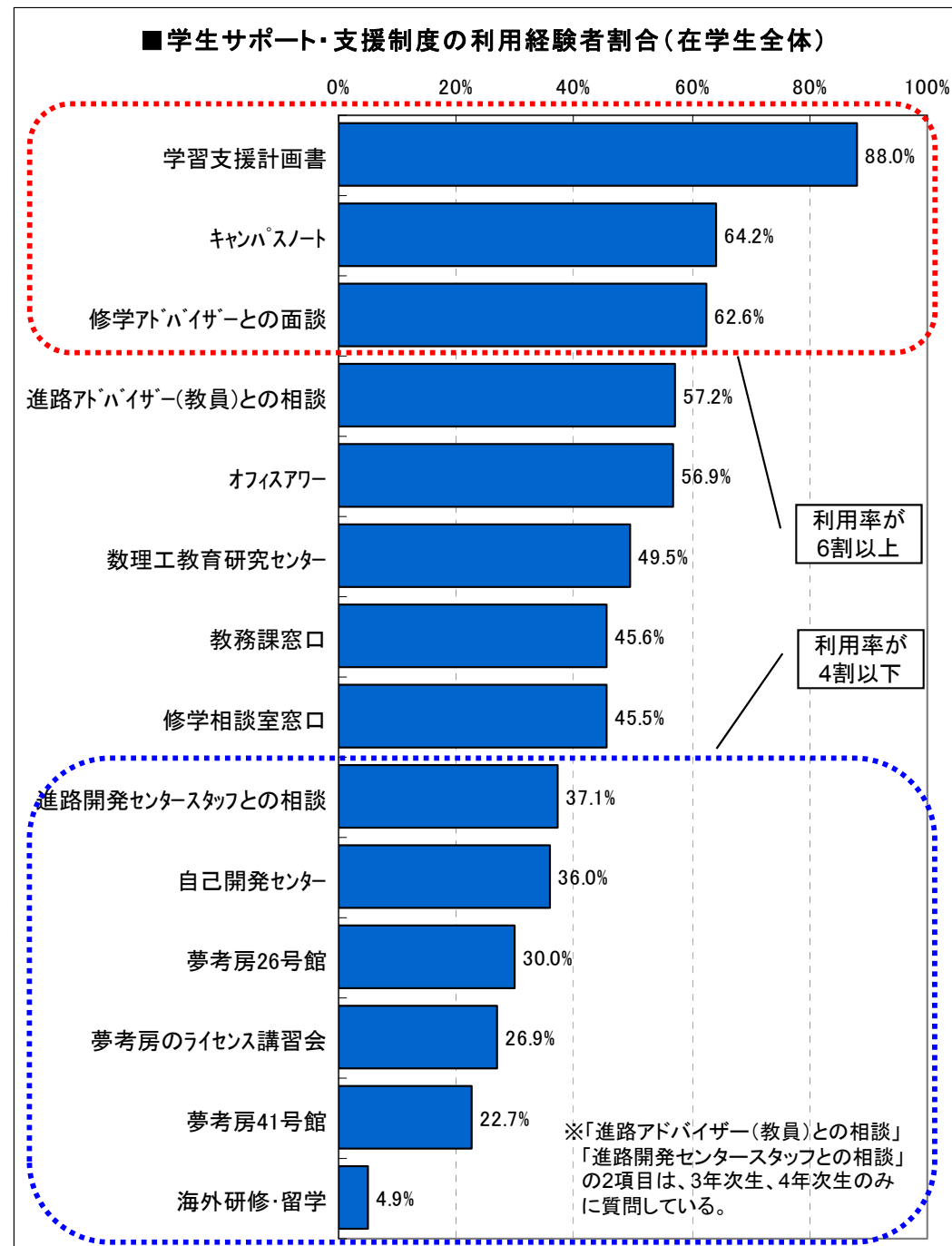
■ 授業の仕組みの評価 (在学生)



<5-3> 学生サポート・支援制度の利用状況

■ 学生サポート・支援制度の利用経験者割合

- 学生サポート・支援制度に関しては、利用経験と評価を聞いているが、まず利用経験を見ると右のグラフのようになる。
- 最も利用経験者の割合が多かったのは「学習支援計画書」の88.0%であり、他の項目と比べて利用率の高さが目立っていたものの、利用していない学生が1割以上いるという点にも注意する必要があると思われる。
- 上記に次いで「キャンパスノート」「修学アドバイザーとの面談」と続いており、ここまでの3つは利用経験者が6割を超えていた。
- 一方、最も利用経験者が少なかったのは「海外研修・留学」の4.9%であり、他と比べると利用者の少なさが目立っていた。
- 上記に加えて「夢考房41号館」「夢考房のライセンス講習会」「夢考房26号館」「自己開発センター」「進路開発センタースタッフとの相談」までの6項目の利用率は4割に満たなかった。

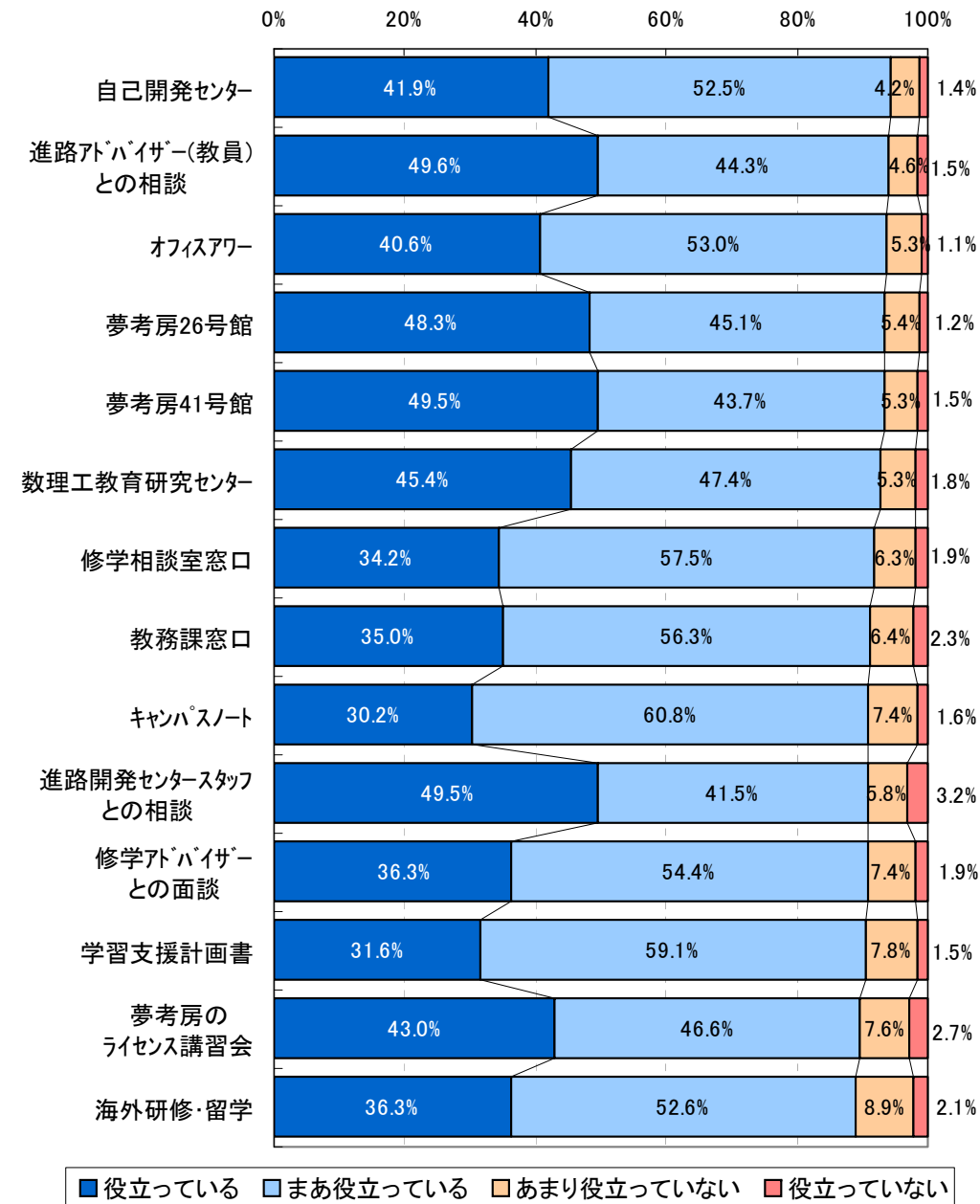


<5-4> 学生サポート・支援制度の評価

■ 学生サポート・支援制度の評価

- 学生サポート・支援制度の利用者に対して、各機能が役立っているかどうかの評価を聞いた。
- 「役立っている」と「まあ役立っている」の合計で見ると、全体的に非常に評価は高く、ほとんどの項目で9割以上が役立っているという肯定的な回答をしていた。
- 最も評価が高かったのは「自己開発センター」であり、94.4%が肯定的な評価であった。次いで「進路アドバイザー(教員)との相談」「オフィスアワー」「夢考房26号館」と続いていた。
- 「役立っている」だけで比較すると、「進路アドバイザー(教員)との相談」に次いで「夢考房41号館」「進路開発センタースタッフとの相談」「夢考房26号館」などの高さが目立っており、これらに関しては一定の学生からは非常に高い評価を受けていることが分かった。
- 一方、評価が低かったのは「海外研修・留学」「夢考房のライセンス講習会」「学習支援計画書」などであったが、これらに関しても9割近くは肯定的な意見であり、大きな問題はないものと思われる。

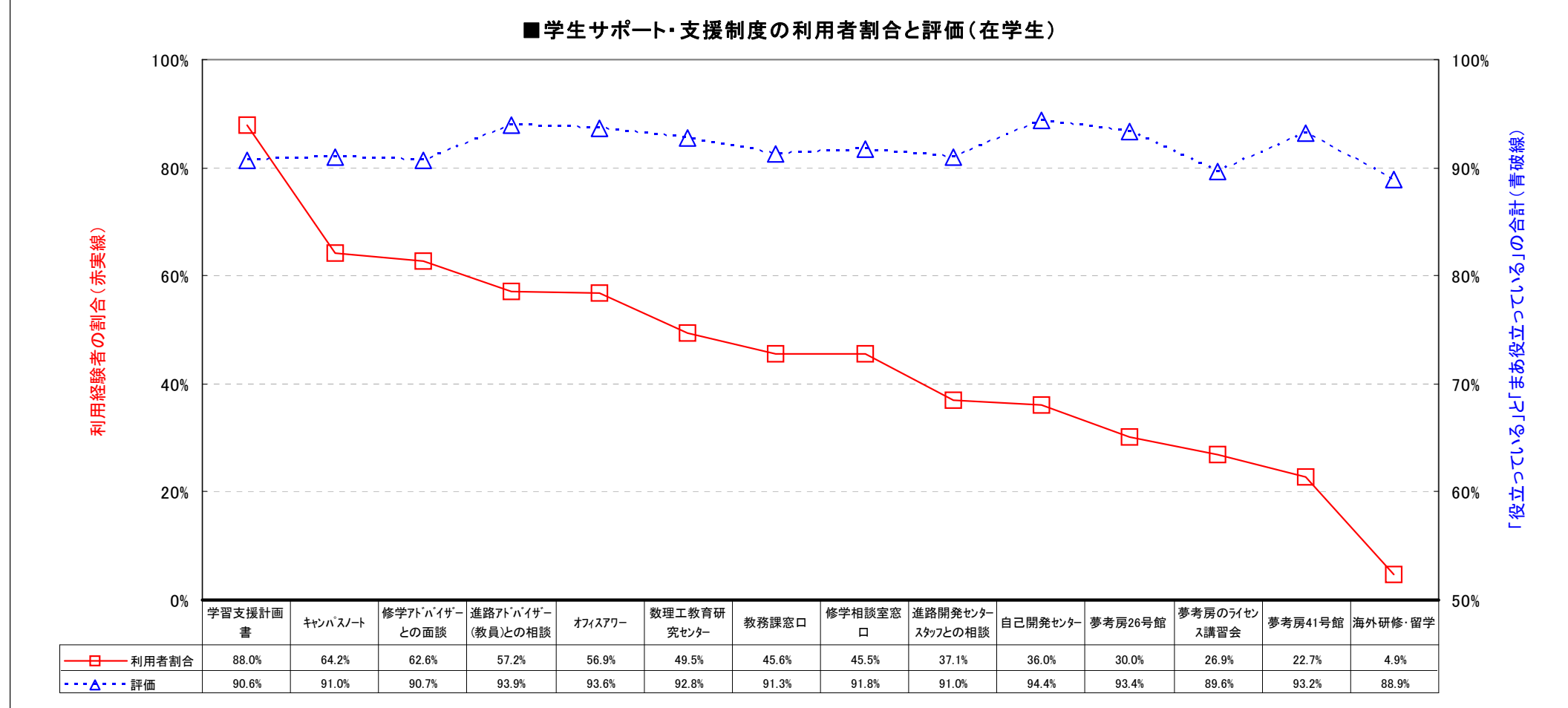
■ 学生サポート・支援制度の評価(在学生)



<5-5> 学生サポート・支援制度の利用者割合と評価

■ 学生サポート・支援制度の利用者割合と評価の比較

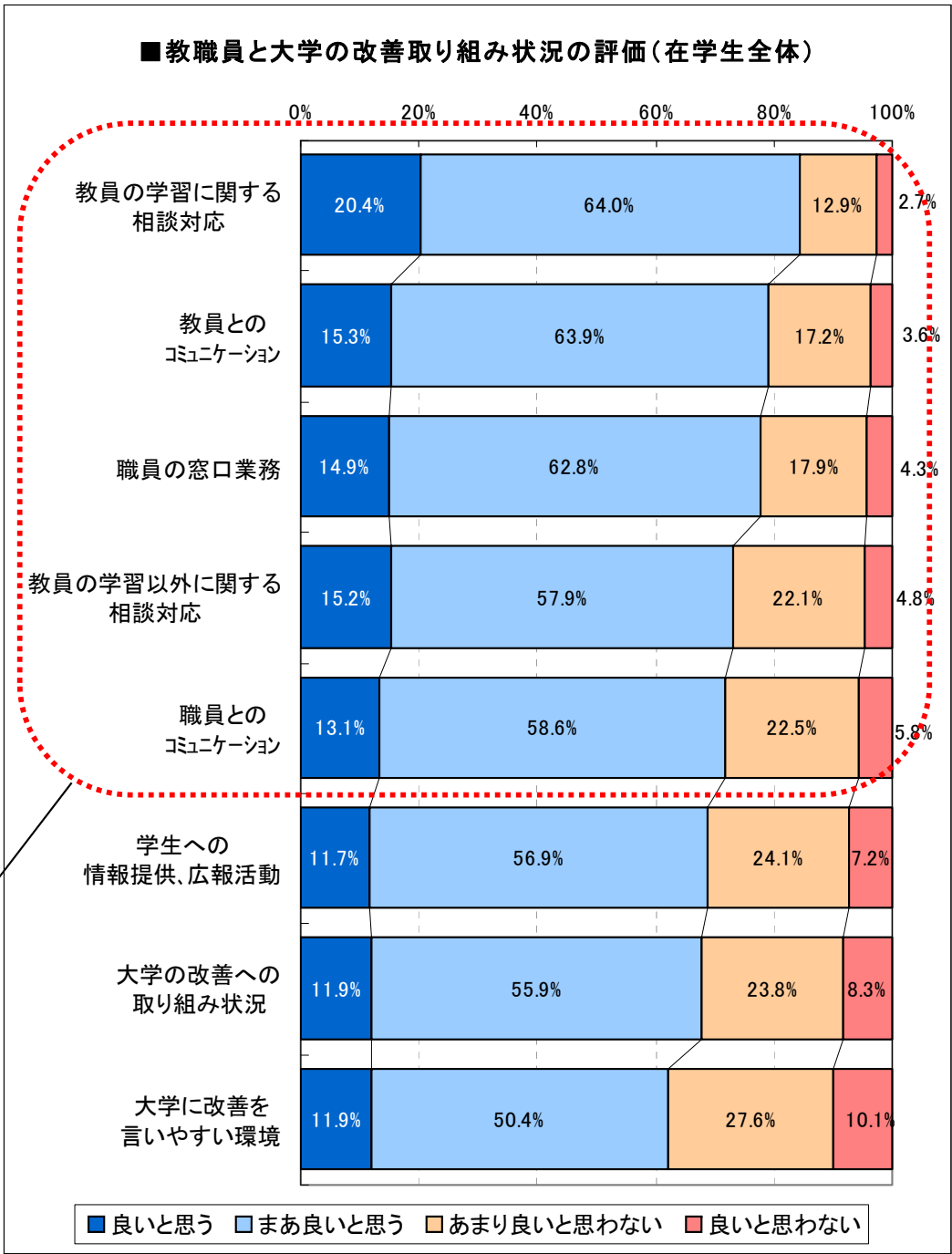
- 学生サポート・支援制度の利用経験者の割合と内容評価をまとめたところ、下記のグラフのようになった。赤い実線が利用経験者の割合で、グラフの左側の数値軸に対応しており、青い破線は「役立っている」と「まあ役立っている」の合計で、右の数値軸に対応している。
- 利用経験者の割合は「学習支援計画書」の88.0%から「海外研修・留学」の4.9%まで大きな差が見られたが、評価についてはほとんどの項目で9割以上が役立ったという意見であり、利用者からは高く評価されていることが分かった。



<6-1>教職員と大学の改善取り組み状況の評価

■教職員と大学の改善取り組み状況の評価

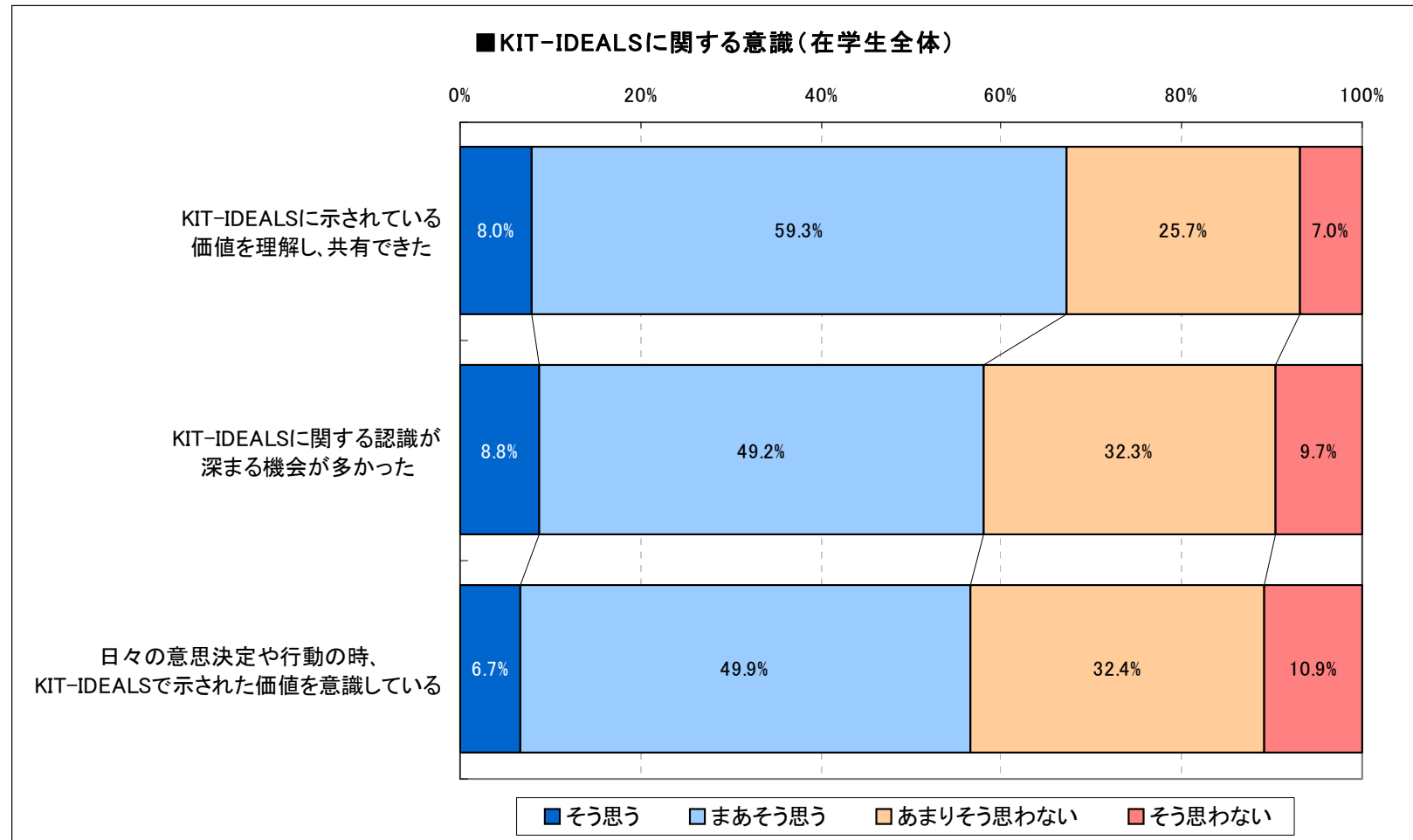
- 教職員の評価と大学の改善への取り組み状況に関して聞いたところ、最も評価が高かったのは「教員の学習に関する相談対応」であり、84.4%が良いという評価であった。次いで「教員とのコミュニケーション」で79.2%、順序は4番目となるが「教員の学習以外に関する相談対応」で73.1%が良いという評価であり、教員の対応は高い評価であったと言える。
- 一方、職員に関しては「職員の窓口業務」で77.7%、「職員とのコミュニケーション」で71.7%が良い評価をしており、教員の評価と比べるとやや低いものの、7割以上が肯定的な評価で、決して低いものではなかった。
- 大学の改善への取り組みに関する項目の評価は全般的に低く、「大学に改善を言いやすい環境」では肯定的な意見が62.3%、「大学の改善への取り組み状況」で67.8%、「学生への情報提供、広報活動」で68.6%というものであった。



<7-1> KIT-IDEALSに関する意識

■KIT-IDEALSに関する意識

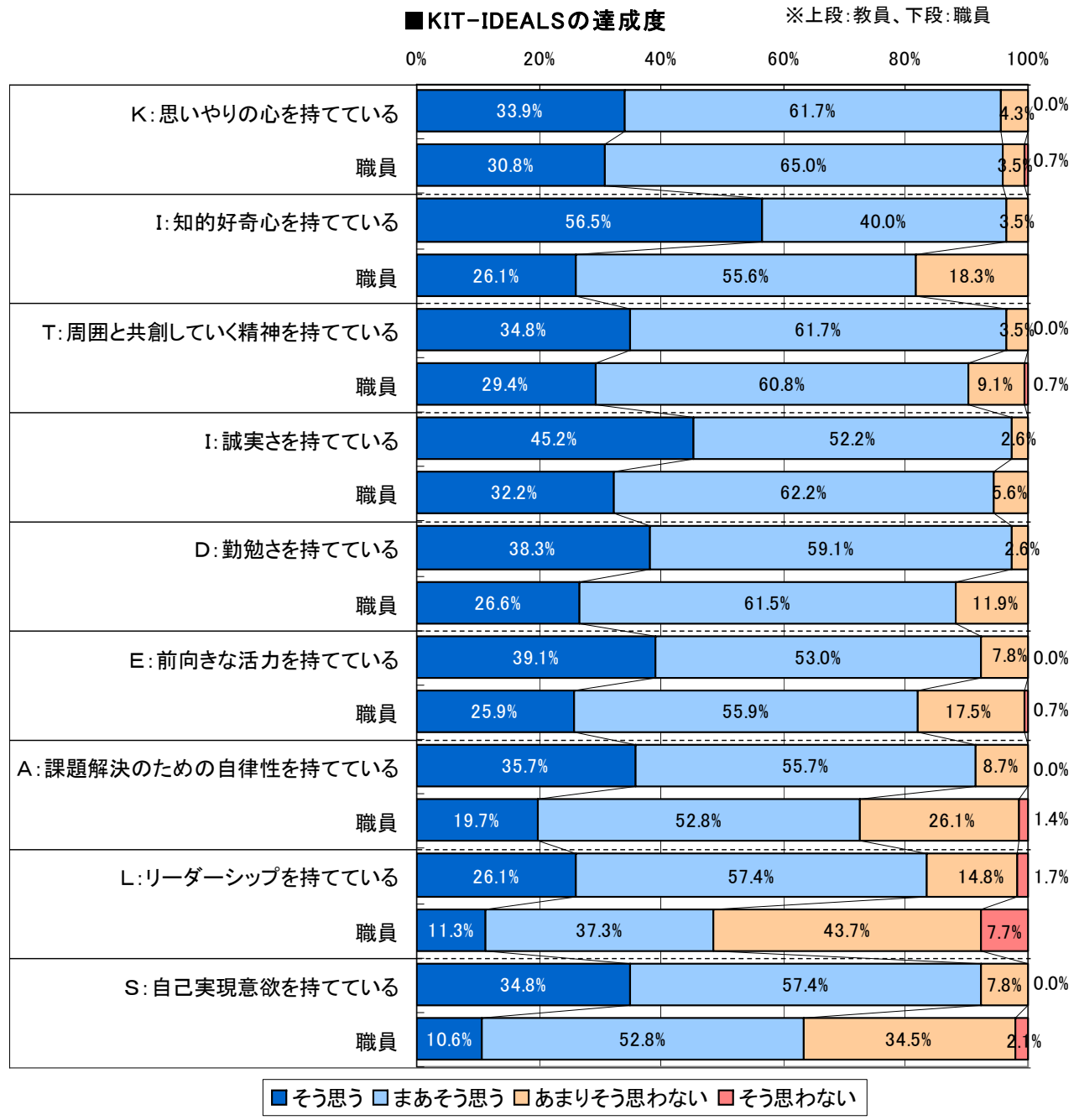
- 在学生のKIT-IDEALSに関する意識を見ると、「KIT-IDEALSに示されている価値を理解し、共有できた」に関しては67.3%が肯定的な意見であった。ただし、残りの32.7%は「価値を理解、共有できていない」という結果であった。
- 「KIT-IDEALSに関する認識が深まる機会が多かった」では58.0%、「日々の意思決定や行動の時、KIT-IDEALSで示された価値を意識している」では56.6%が肯定的な意見であった。いずれも半数は超えているものの、半数近くは否定的な意見であった。



<7-2>教職員のKIT-IDEALSの達成度

■教職員のKIT-IDEALSの達成度

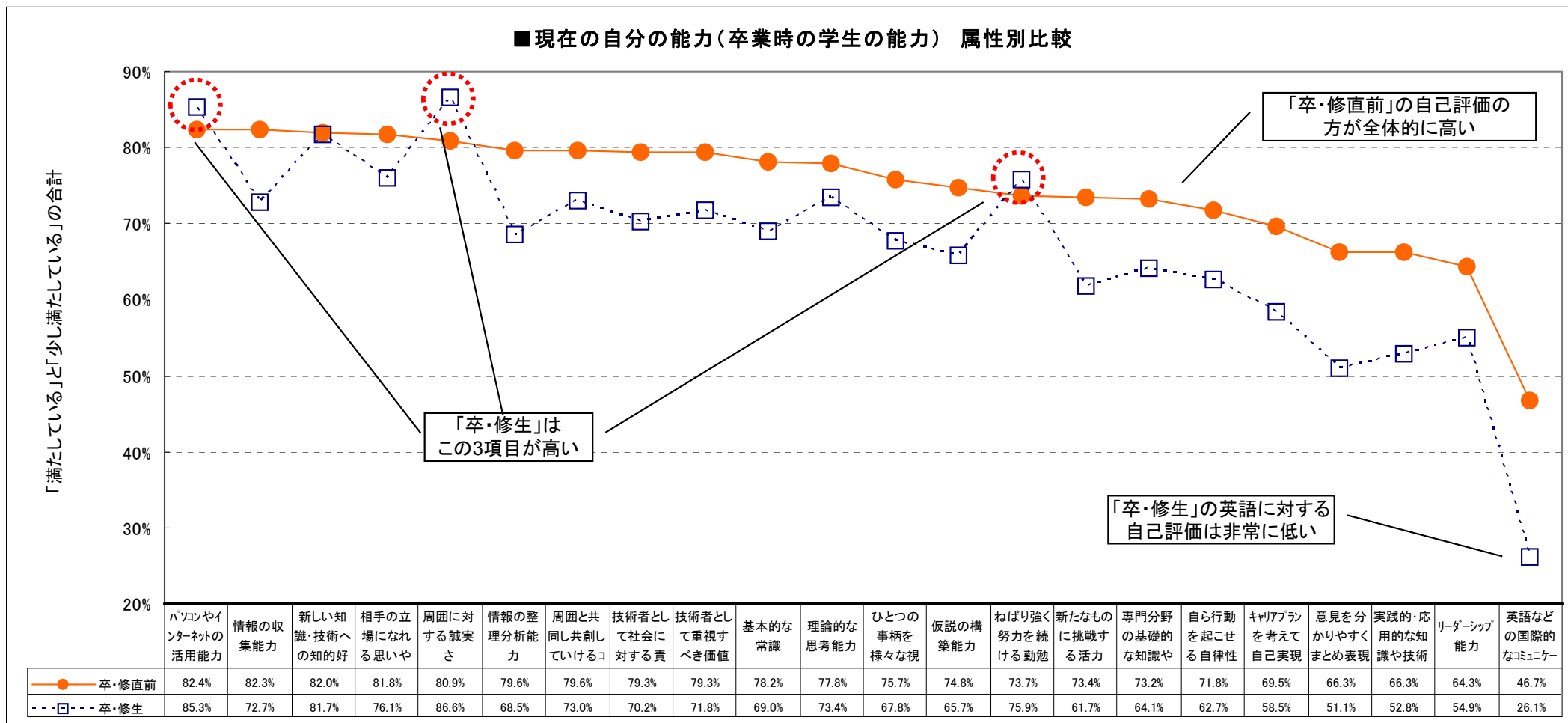
- 「KIT-IDEALS」の各項目に関する達成度は教職員のみについているため、各々の結果をグラフ化した。
- 「そう思う」と「まあそう思う」の合計で比較すると、「教員」はすべての項目で8割以上が肯定的な意見であった。「教員」の評価で最も低かった項目は「L:リーダーシップを持っている」で、「教員」が自分の弱い部分であると自己評価しているようである。
- 一方、「職員」にはやや低めの項目がいくつかあり、「I:知的好奇心を持っている」「E:前向きな活力を持っている」「A:課題解決のための自律性を持っている」「L:リーダーシップを持っている」「S:自己実現意欲を持っている」に対する自己評価がやや低めであった。特に「L:リーダーシップ」と「S:自己実現意欲」の低さは目立っており、「職員」の特徴がうかがえた。



<8-1>卒業時の能力

■卒業時の能力の属性別比較

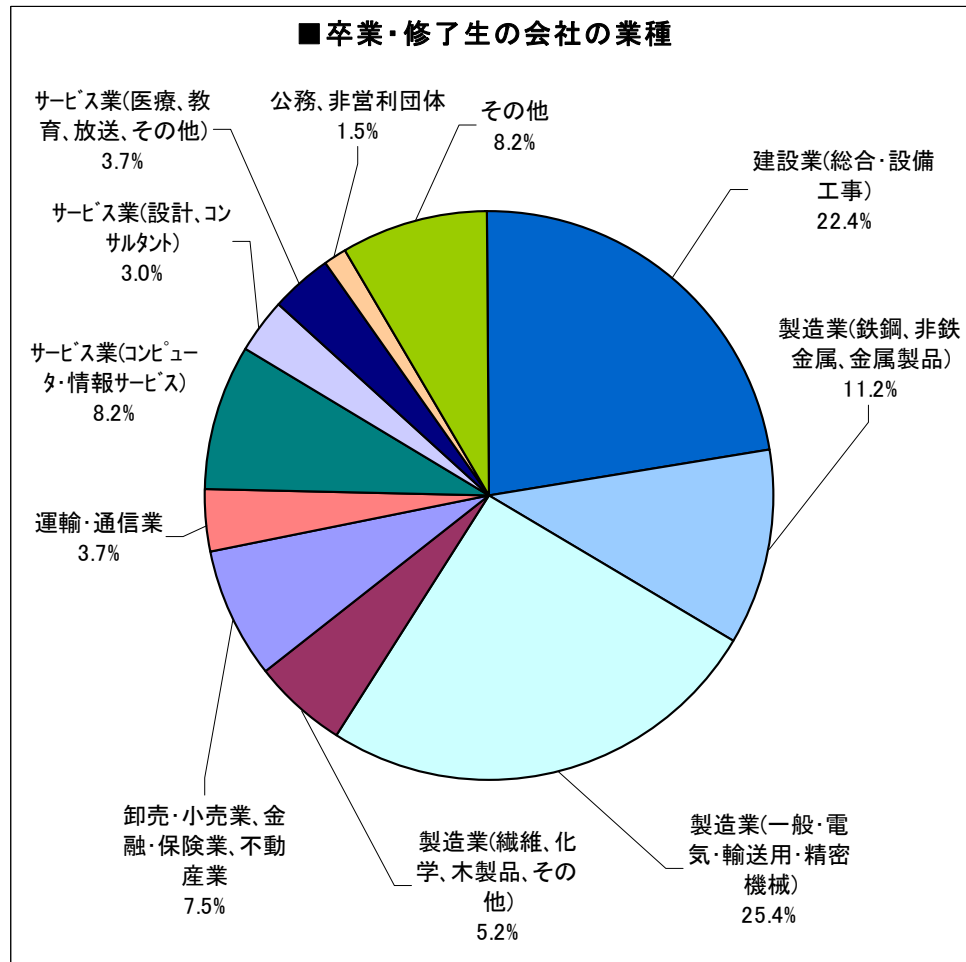
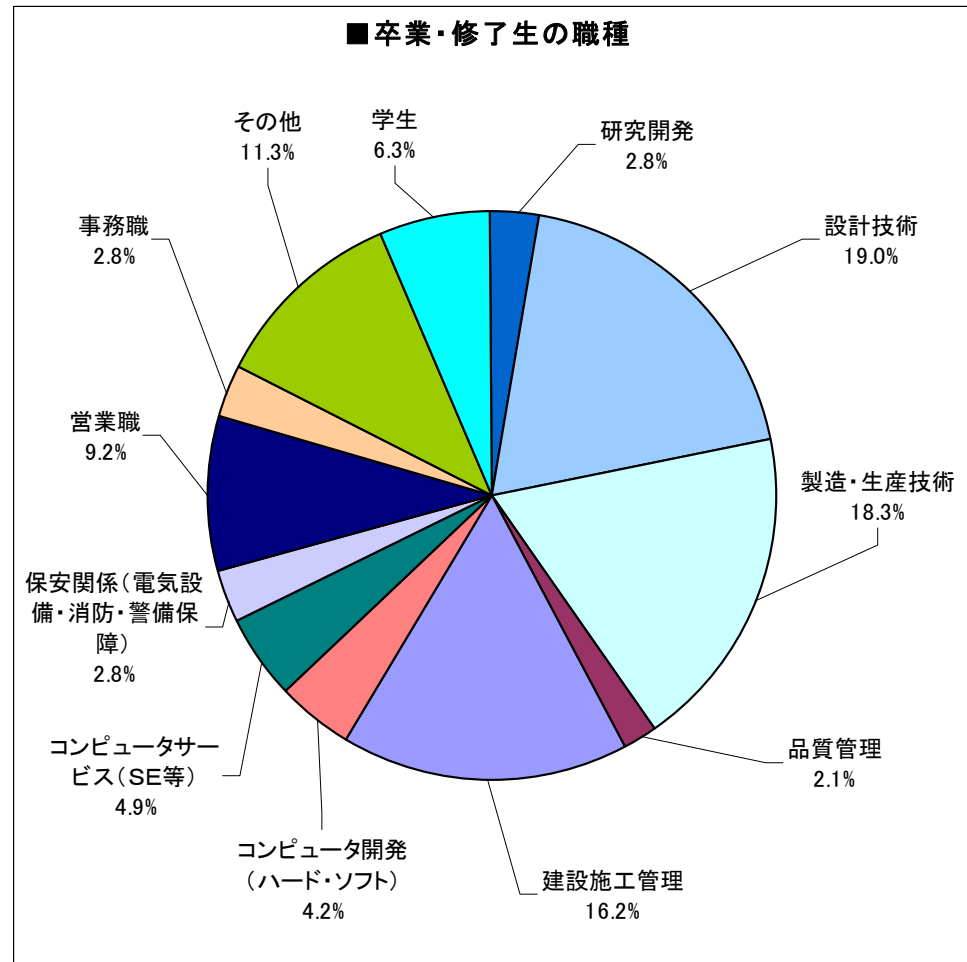
- 卒業時の能力は「卒・修直前」と「卒・修生」に聞いているが、ほとんどの項目で「卒・修直前」の自己評価の方が高く、「卒・修生」は自分自身に対して厳しい見方をしていた。
- 「卒・修生」の自己評価において、「パソコンやインターネットの活用能力」「周囲に対する誠実さ」「ねばり強く努力を続ける勤勉さ」の3項目は「卒・修直前」を上回っており、この点は卒業・修了した後の強みになっているものと思われる。ただし、この3項目以外については、卒業・修了時点より厳しい自己評価になっていると言える。
- 「卒・修直前」の自己評価でも「パソコンやインターネットの活用能力」が最も高く、この点は在学生も含めてKITの学生の強みになっていると思われる。次いで「情報の収集能力」「新しい知識・技術への知的好奇心」「相手の立場になれる思いやりの心」「周囲に対する誠実さ」と続いていた。
- 「英語などの国際的なコミュニケーション能力」は「卒・修生」「卒・修直前」共に非常に低く、苦手意識があり、社会人になった後にも自信を持っていないという様子が見えがえる。



<9-1>卒業・修了生の基本属性

■現在の職種と会社の業種

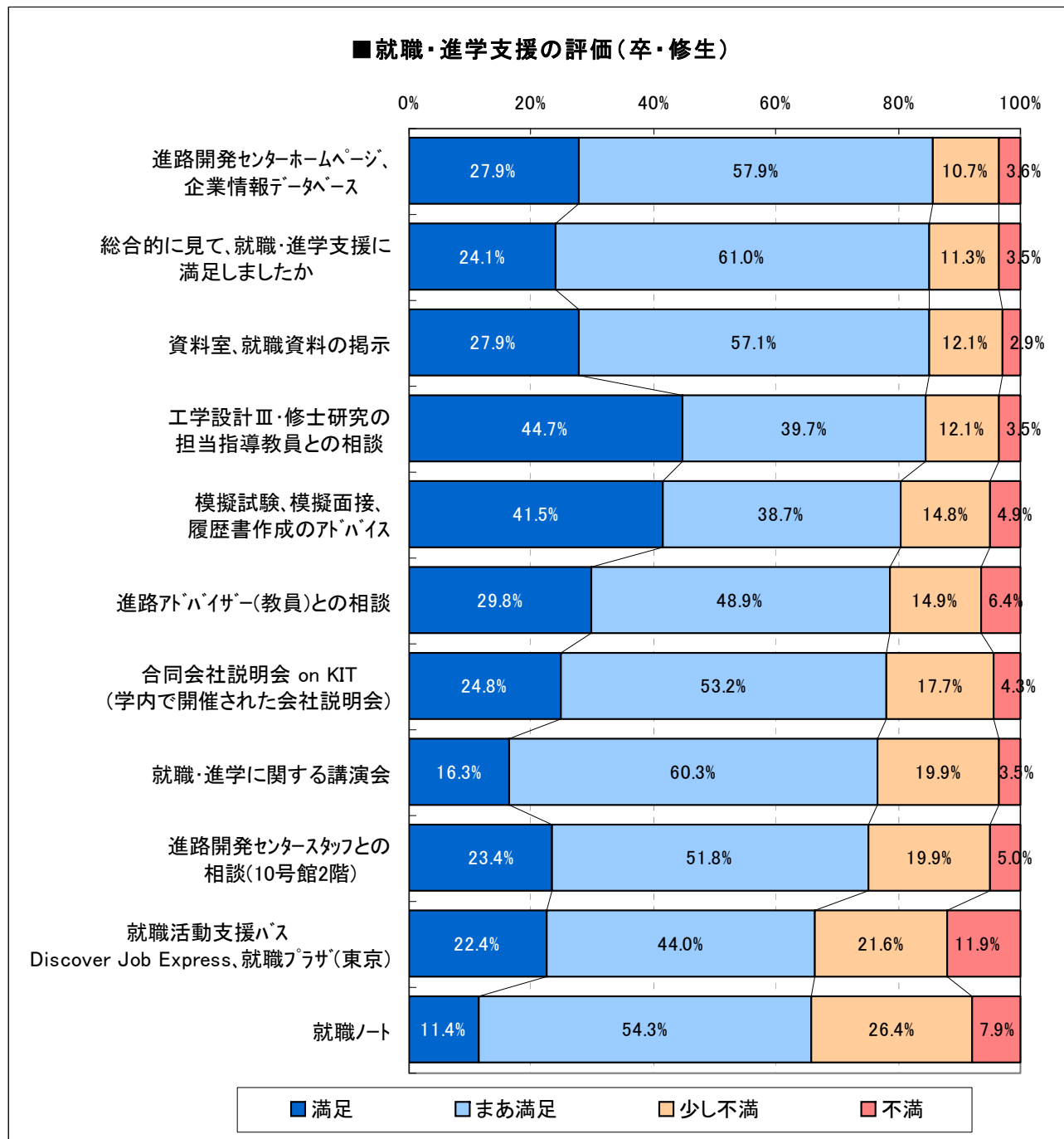
- 卒業・修了生の基本的な属性は下記の通りであった。
- 職種では「設計技術」が19.0%で最も多く、「製造・生産技術」が18.3%、「建設施工管理」が16.2%、「営業職」が9.2%と続いていた。
- 会社の業種では「製造業(一般・電気・輸送用・精密機械)」が25.4%で最も多く、次いで「建設業(総合・設備工事)」が22.4%、「製造業(鉄鋼、非鉄金属、金属製品)」が11.2%、「サービス業(コンピュータ・情報サービス)」が8.2%と続いていた。



<9-2>就職・進学支援の評価

■就職・進学支援の評価

- 「卒・修生」に就職・進学支援に関する満足度を聞いたところ、右のグラフのようになった。
- まず、「総合的に見て、就職・進学支援に満足しましたか」という問いに対しては「満足」が24.1%、「まあ満足」が61.0%であり、合わせると85.1%が「就職・進学支援」に満足しているという、肯定的な評価をしていた。
- 上記以外の項目を見ると「進路開発センターホームページ、企業情報データベース」の満足度が85.8%で最も高く、「資料室、就職資料の掲示」(85.0%)、「工学設計Ⅲ・修士研究の担当指導教員との相談」(84.4%)、「模擬試験、模擬面接、履歴書作成のアドバイス」(80.2%)と続いており、ここまでは肯定的な意見の割合が8割を超え、評価が高かった。特に「工学設計Ⅲ・修士研究の担当指導教員との相談」と「模擬試験、模擬面接、履歴書作成のアドバイス」では、「満足」という回答が4割を超えており、非常に満足度が高いと言える。
- 一方、最も満足度が低かったのは「就職ノート」で、肯定的な意見の割合は65.7%であった。そして、「就職活動支援バス、就職プラザ」「進路開発センタースタッフとの相談」といったものが下位にきていた。

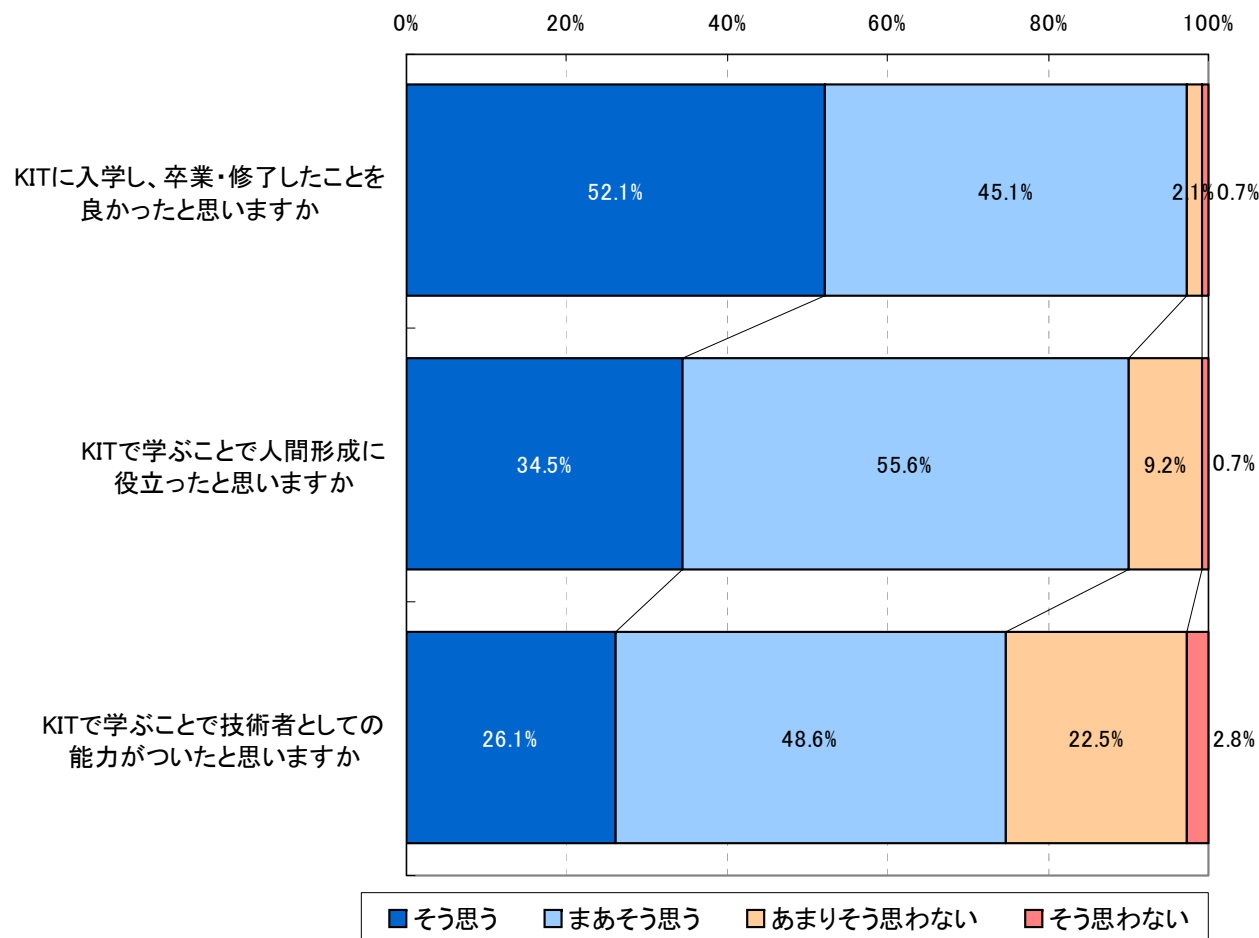


<9-3>卒業後のKITの評価

■卒業後のKITの評価

- 卒業生、修了生に対し、卒業後に振り返ってKITをどう思うか聞いた。
- 「KITに入学し、卒業・修了したことを良かったと思いますか」という問いに対しては52.1%が「そう思う」と答えており、「まあそう思う」の45.1%を加えると合わせて97.2%が肯定的な意見であり、評価は非常に高いと言える。
- 上記に次いで「KITで学ぶことで人間形成に役立ったと思いますか」では90.1%、「KITで学ぶことで技術者としての能力がついたと思いますか」に関しては74.7%が肯定的な意見であり、評価は高いと言える。

■卒業後に振り返ってのKITの評価(卒・修生)



<10-1>新入生のプロフィール

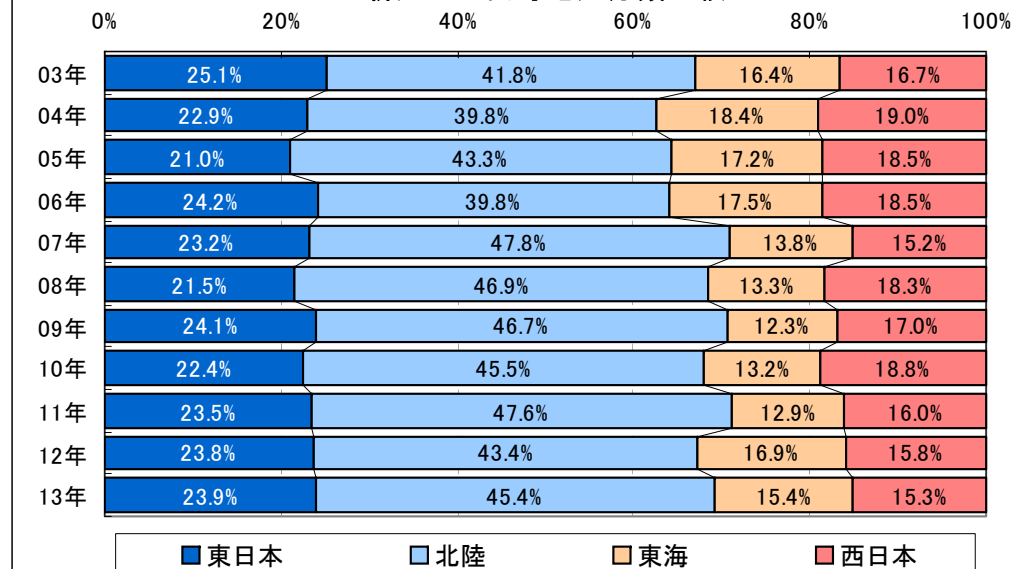
■新入生の学部・学科、出身地

- 新入生の所属学部を見ると、「工学部」が54.8%、「情報フロンティア学部」が15.3%、「環境・建築学部」が18.8%、「バイオ・化学部」が10.7%という割合であった。
- 出身地域は「北陸」が45.4%で最も多く、次いで「東日本」が23.9%、「東海」が15.4%、「西日本」が15.3%と続いており、以前の差はほとんど見られなかった。
- 出身地域を詳細に見ると「北陸」が最も多く、次いで「東海」「甲信越」「関西」と続いていた。

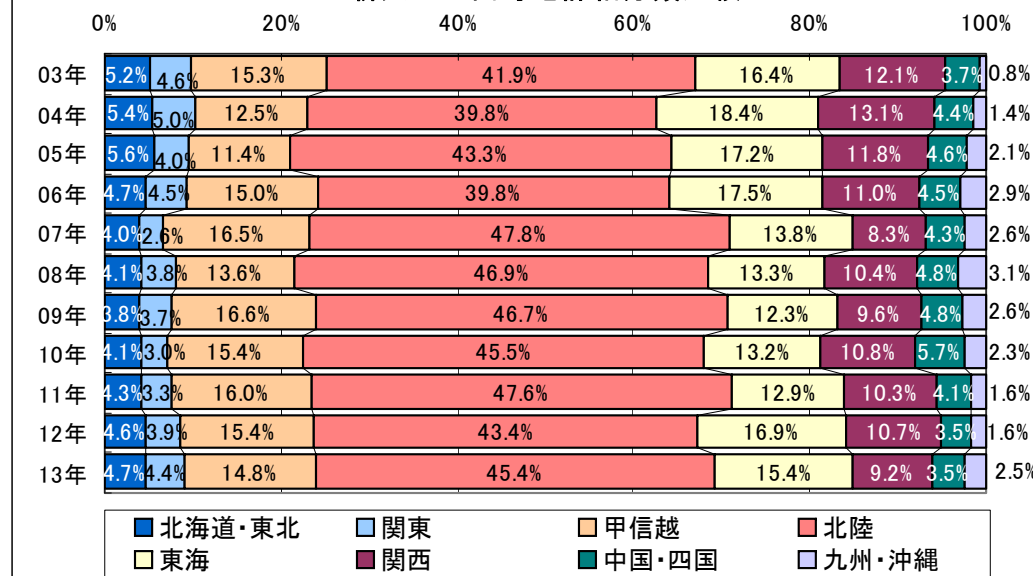
■学部・学科割合

学部	学科	回答者数	割合	回答者数	割合
工学部	機械工学科	1,033	54.8%	229	12.1%
	航空システム工学科			80	4.2%
	ロボティクス学科			141	7.5%
	電気電子工学科			219	11.6%
	電子情報通信工学科			76	4.0%
	情報工学科			288	15.3%
情報フロンティア学部	メディア情報学科	288	15.3%	157	8.3%
	経営情報学科			71	3.8%
	心理情報学科			60	3.2%
環境・建築学部	建築デザイン学科	355	18.8%	145	7.7%
	建築学科			146	7.7%
	環境土木工学科			64	3.4%
バイオ・化学部	応用化学科	202	10.7%	92	4.9%
	応用バイオ学科			110	5.8%
	無回答	8	0.4%	8	0.4%
	合計	1,886	100.0%	1,886	100.0%

■新入生の出身地大分類比較



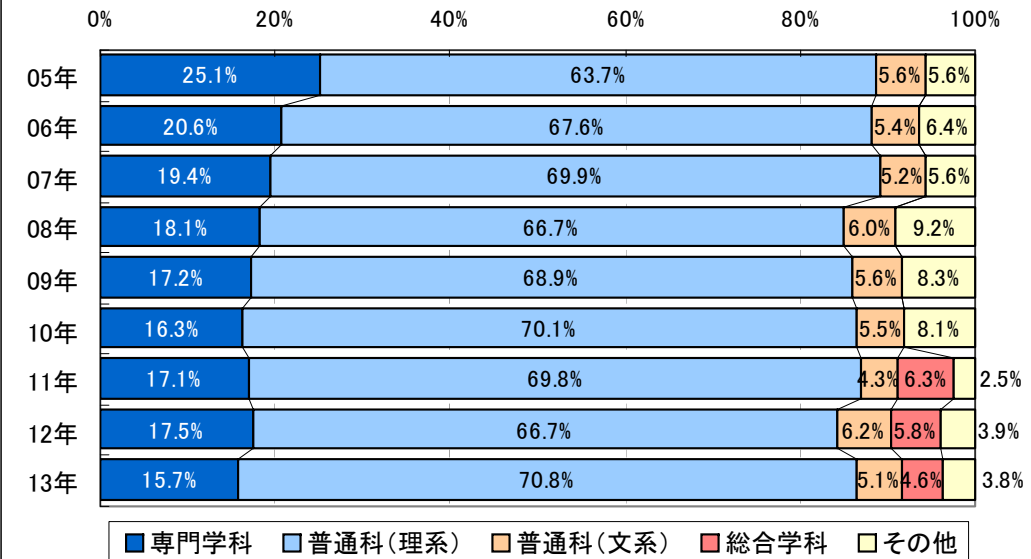
■新入生の出身地詳細分類比較



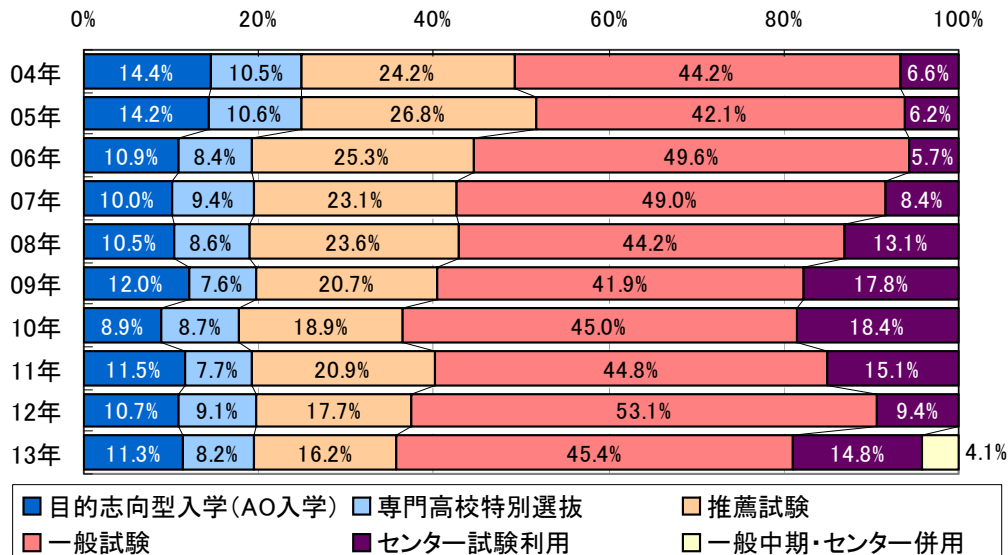
■ 新入生入試の種類、高校課程、現浪

- 入試の種類を見ると「一般試験」が45.4%で最も多く、次いで、「推薦試験」が16.2%、「センター試験利用」が14.8%と続いていた。
- 時系列の変化に関しては今回から「一般中期・センター併用」が加わった影響もあるが、「一般試験」の増加傾向は止まって前回よりわずかに減少しており、「センター試験利用」は前回よりも増加し、「推薦試験」は減少が続いていた。
- 出身校の課程では「普通科(理系)」が70.8%と最も多く、これまでで最も多くなっていた。次いで「専門学科」が15.7%、「普通科(文系)」が5.1%、「総合学科」が4.6%と続いており、いずれも前回は下回っていた。
- 入学時の現浪比較では「現役入学」が91.0%で、経年変化はほとんど見られなかった。

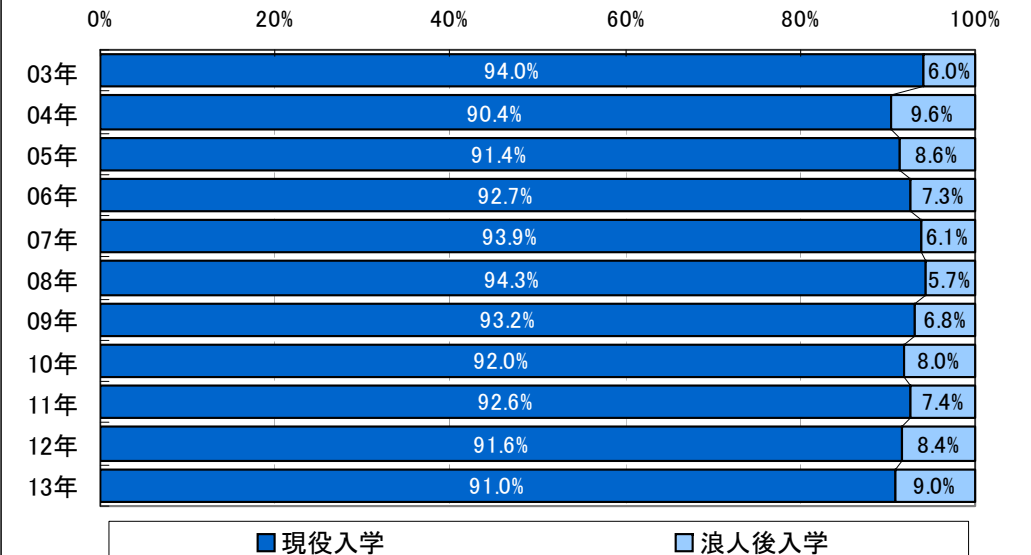
■ 新入生の出身高校課程比較



■ 入試の種類

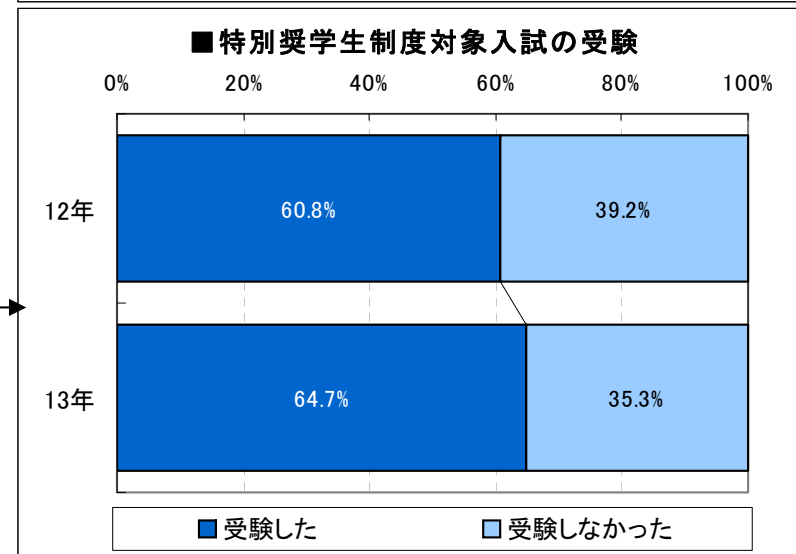
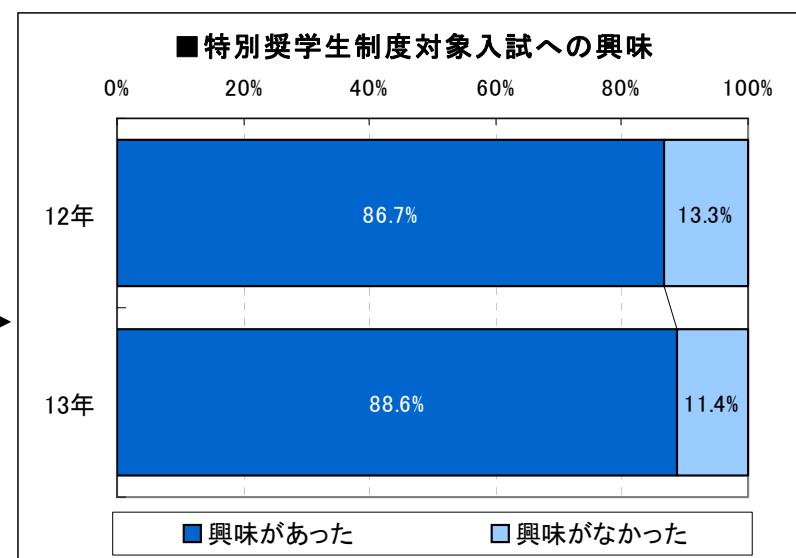
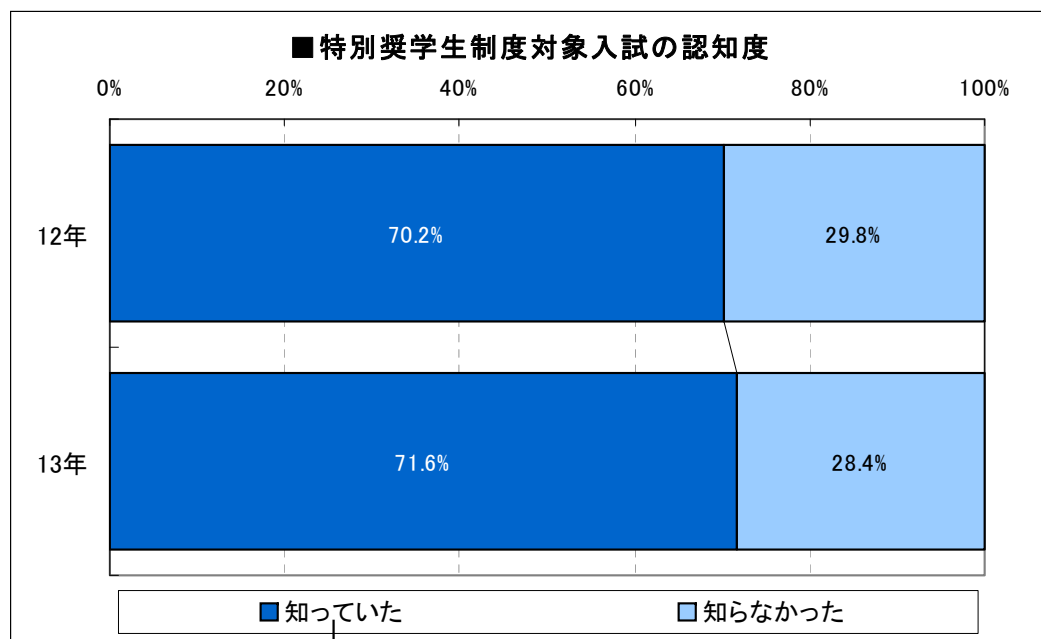


■ 新入生の入学時の現浪比較



■特別奨学生制度対象入試の受験

- 「特別奨学生制度」の認知度に関しては、「知っていた」が71.6%であり、前回よりも1.4ポイント増加していた。
- 制度を「知っていた」と答えた学生に対して「制度への興味」を聞いたところ、88.6%が興味を持っていると答えており、これも前回は1.9ポイント上回り、興味の高さを感じられた。
- 制度を知っている学生に「特別奨学生制度対象入試の受験の有無」を聞くと、64.7%が「受験した」と答えていたが、これは興味を持っている学生に比べてかなり少なかった。ただし、前回と比べると3.9ポイント増加しており、「特別奨学生制度対象入試」の受験生への浸透を感じられた。



■過去4年間の出身地一覧

■10年 出身地一覧

都道府県	人数	割合	大分類	詳細分類
北海道	20	1.2%	東日本	北海道・東北
青森県	1	0.1%		
岩手県	2	0.1%		
宮城県	13	0.8%		
秋田県	16	0.9%		
山形県	13	0.8%		
福島県	5	0.3%		
茨城県	8	0.5%		
栃木県	8	0.5%		
群馬県	15	0.9%		
埼玉県	5	0.3%		
千葉県	6	0.3%		
東京都	3	0.2%		
神奈川県	6	0.3%		
新潟県	161	9.3%		
山梨県	1	0.1%		
長野県	102	5.9%		
富山県	225	13.1%		
石川県	433	25.1%		
福井県	123	7.1%		
岐阜県	64	3.7%		
静岡県	81	4.7%		
愛知県	53	3.1%		
三重県	29	1.7%		
滋賀県	45	2.6%		
京都府	24	1.4%		
大阪府	31	1.8%		
兵庫県	67	3.9%		
奈良県	5	0.3%		
和歌山県	13	0.8%		
鳥取県	10	0.6%		
島根県	7	0.4%		
岡山県	23	1.3%		
広島県	18	1.0%		
山口県	8	0.5%		
徳島県	14	0.8%		
香川県	7	0.4%		
愛媛県	7	0.4%		
高知県	3	0.2%		
福岡県	20	1.2%		
佐賀県	2	0.1%		
長崎県	3	0.2%		
熊本県	1	0.1%		
大分県	3	0.2%		
宮崎県	2	0.1%		
鹿児島	4	0.2%		
沖縄県	5	0.3%		
不明	8	0.5%		
合計	1723	100.0%	1723	100.0%

■11年 出身地一覧

都道府県	人数	割合	大分類	詳細分類
北海道	19	1.2%	東日本	北海道・東北
青森県	4	0.2%		
岩手県	2	0.1%		
宮城県	5	0.3%		
秋田県	10	0.6%		
山形県	18	1.1%		
福島県	10	0.6%		
茨城県	10	0.6%		
栃木県	4	0.2%		
群馬県	19	1.2%		
埼玉県	3	0.2%		
千葉県	4	0.2%		
東京都	6	0.4%		
神奈川県	6	0.4%		
新潟県	152	9.5%		
山梨県	9	0.6%		
長野県	94	5.8%		
富山県	229	14.3%		
石川県	408	25.4%		
福井県	122	7.6%		
岐阜県	60	3.7%		
静岡県	59	3.7%		
愛知県	49	3.0%		
三重県	38	2.4%		
滋賀県	55	3.4%		
京都府	19	1.2%		
大阪府	25	1.6%		
兵庫県	55	3.4%		
奈良県	6	0.4%		
和歌山県	5	0.3%		
鳥取県	4	0.2%		
島根県	9	0.6%		
岡山県	12	0.7%		
広島県	14	0.9%		
山口県	3	0.2%		
徳島県	9	0.6%		
香川県	8	0.5%		
愛媛県	5	0.3%		
高知県	1	0.1%		
福岡県	11	0.7%		
佐賀県	0	0.0%		
長崎県	11	0.7%		
熊本県	1	0.1%		
大分県	0	0.0%		
宮崎県	1	0.1%		
鹿児島	0	0.0%		
沖縄県	2	0.1%		
不明	11	0.7%		
合計	1607	100.0%	1607	100.0%

■12年 出身地一覧

都道府県	人数	割合	大分類	詳細分類
北海道	19	1.1%	東日本	北海道・東北
青森県	8	0.5%		
岩手県	7	0.4%		
宮城県	7	0.4%		
秋田県	8	0.5%		
山形県	20	1.1%		
福島県	10	0.6%		
茨城県	12	0.7%		
栃木県	8	0.5%		
群馬県	23	1.3%		
埼玉県	6	0.3%		
千葉県	5	0.3%		
東京都	7	0.4%		
神奈川県	6	0.3%		
新潟県	160	9.2%		
山梨県	6	0.3%		
長野県	99	5.7%		
富山県	222	12.7%		
石川県	419	24.0%		
福井県	108	6.2%		
岐阜県	81	4.6%		
静岡県	97	5.6%		
愛知県	78	4.5%		
三重県	36	2.1%		
滋賀県	53	3.0%		
京都府	31	1.8%		
大阪府	27	1.5%		
兵庫県	56	3.2%		
奈良県	8	0.5%		
和歌山県	9	0.5%		
鳥取県	7	0.4%		
島根県	3	0.2%		
岡山県	22	1.3%		
広島県	15	0.9%		
山口県	4	0.2%		
徳島県	3	0.2%		
香川県	1	0.1%		
愛媛県	5	0.3%		
高知県	1	0.1%		
福岡県	14	0.8%		
佐賀県	2	0.1%		
長崎県	1	0.1%		
熊本県	2	0.1%		
大分県	2	0.1%		
宮崎県	2	0.1%		
鹿児島	1	0.1%		
沖縄県	4	0.2%		
不明	20	1.1%		
合計	1745	100.0%	1745	100.0%

■13年 出身地一覧

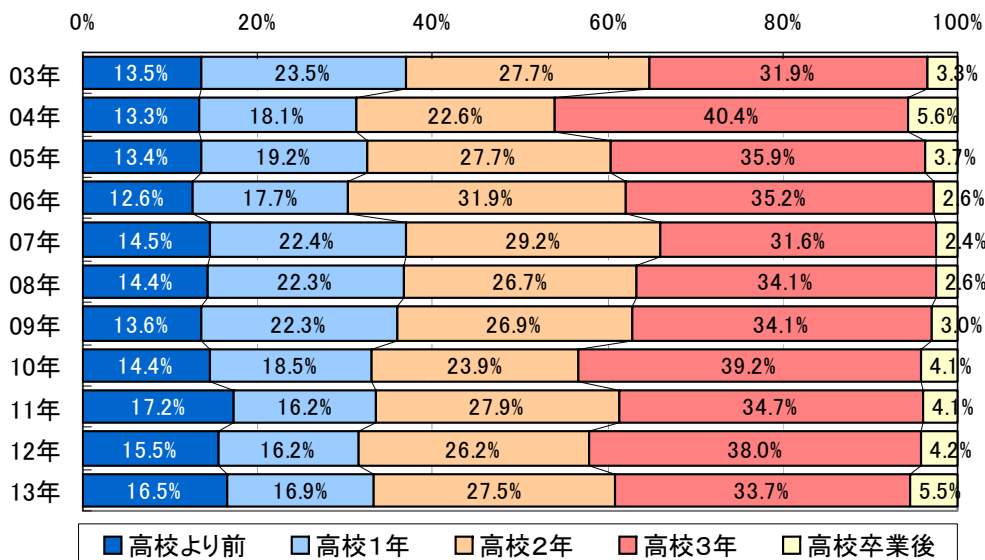
都道府県	人数	割合	大分類	詳細分類
北海道	24	1.3%	東日本	北海道・東北
青森県	9	0.5%		
岩手県	6	0.3%		
宮城県	9	0.5%		
秋田県	15	0.8%		
山形県	19	1.0%		
福島県	6	0.3%		
茨城県	17	0.9%		
栃木県	13	0.7%		
群馬県	25	1.3%		
埼玉県	4	0.2%		
千葉県	5	0.3%		
東京都	7	0.4%		
神奈川県	12	0.6%		
新潟県	151	8.0%		
山梨県	13	0.7%		
長野県	112	5.9%		
富山県	258	13.7%		
石川県	481	25.5%		
福井県	108	5.7%		
岐阜県	61	3.2%		
静岡県	92	4.9%		
愛知県	75	4.0%		
三重県	60	3.2%		
滋賀県	40	2.1%		
京都府	34	1.8%		
大阪府	24	1.3%		
兵庫県	57	3.0%		
奈良県	7	0.4%		
和歌山県	10	0.5%		
鳥取県	11	0.6%		
島根県	4	0.2%		
岡山県	13	0.7%		
広島県	12	0.6%		
山口県	6	0.3%		
徳島県	4	0.2%		
香川県	3	0.2%		
愛媛県	5	0.3%		
高知県	8	0.4%		
福岡県	15	0.8%		
佐賀県	3	0.2%		
長崎県	5	0.3%		
熊本県	2	0.1%		
大分県	2	0.1%		
宮崎県	5	0.3%		
鹿児島	4	0.2%		
沖縄県	11	0.6%		
不明	19	1.0%		
合計	1886	100.0%	1886	100.0%

<10-3> KITの認知経路などに関して

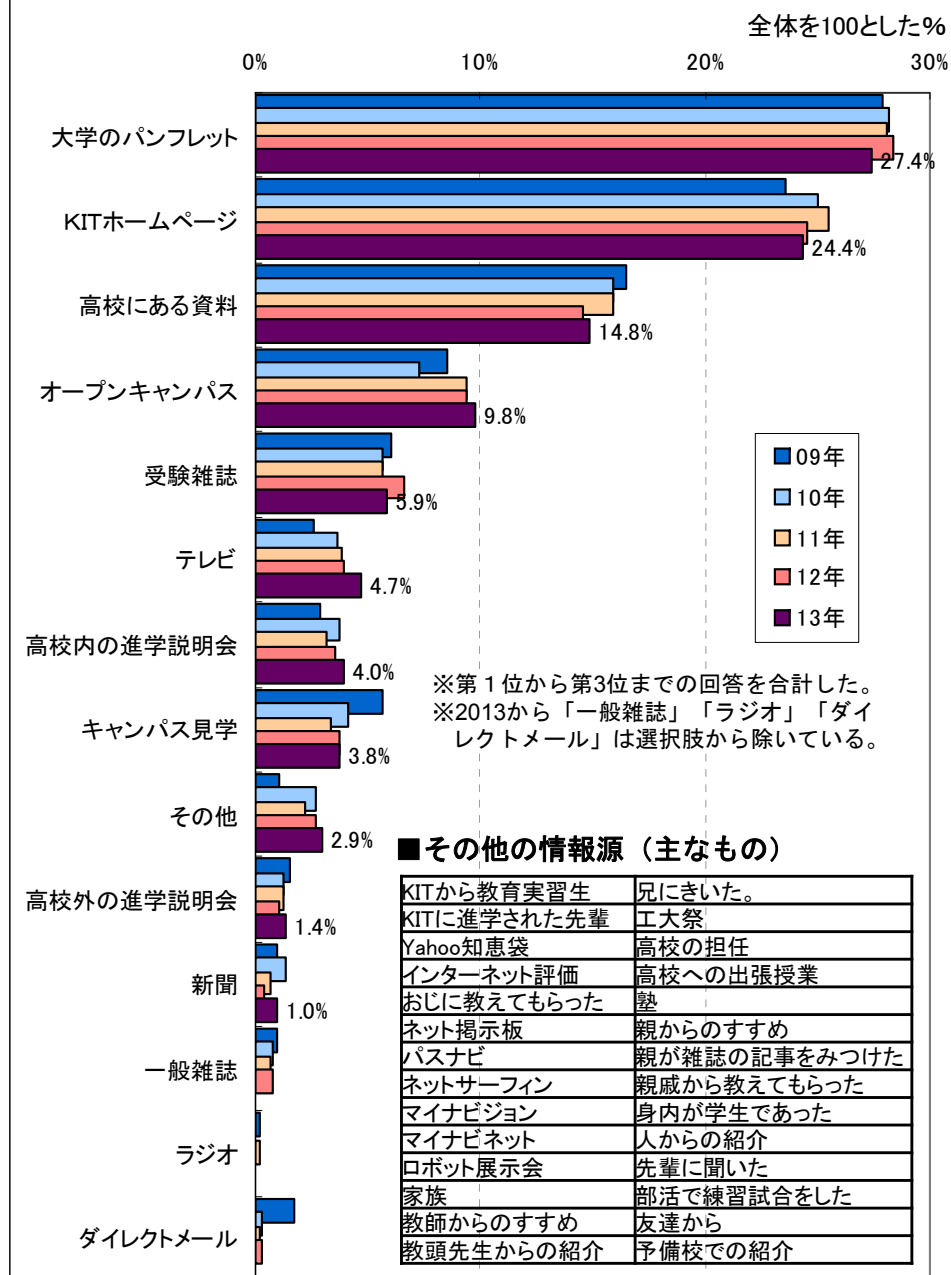
■KITを知った時期と利用した媒体

- KITを知った時期で最も多かったのは「高校3年」の33.7%であり、「高校2年」が27.5%、「高校1年」が16.9%と続いており、これまでと比較して大きな変化はないが、「高校3年」がやや減少し、他の項目がわずかず増加していた。
- KITを知るために使った媒体では「大学のパンフレット」が27.4%と最も多く、「KITホームページ」「高校にある資料」と続いていた。
- 経年比較をしているが、今回から「一般雑誌」「ラジオ」「ダイレクトメール」の3つの媒体を選択肢から外している。これまでと比べて大きな変化は見られなかったが、「オープンキャンパス」「テレビ」「高校内の進学説明会」は今回が最多となっており、「大学のパンフレット」は最も少なくなっていた。
- 次のページの「KIT入学を相談した人」では「親・親戚」が過去最高となり、「高校の担任の先生」「高校の進路の先生」は前年より少なくなっていたが、大きな変化ではなかった。
- 「学科を選択した理由」もそれほど大きな変化は見られなかったが、「将来性」「就職内容」が低い状態のままである点が特徴的であり、「学科の名称・イメージ」が過去最高になっていた。

■新入生 KITを知った時期比較

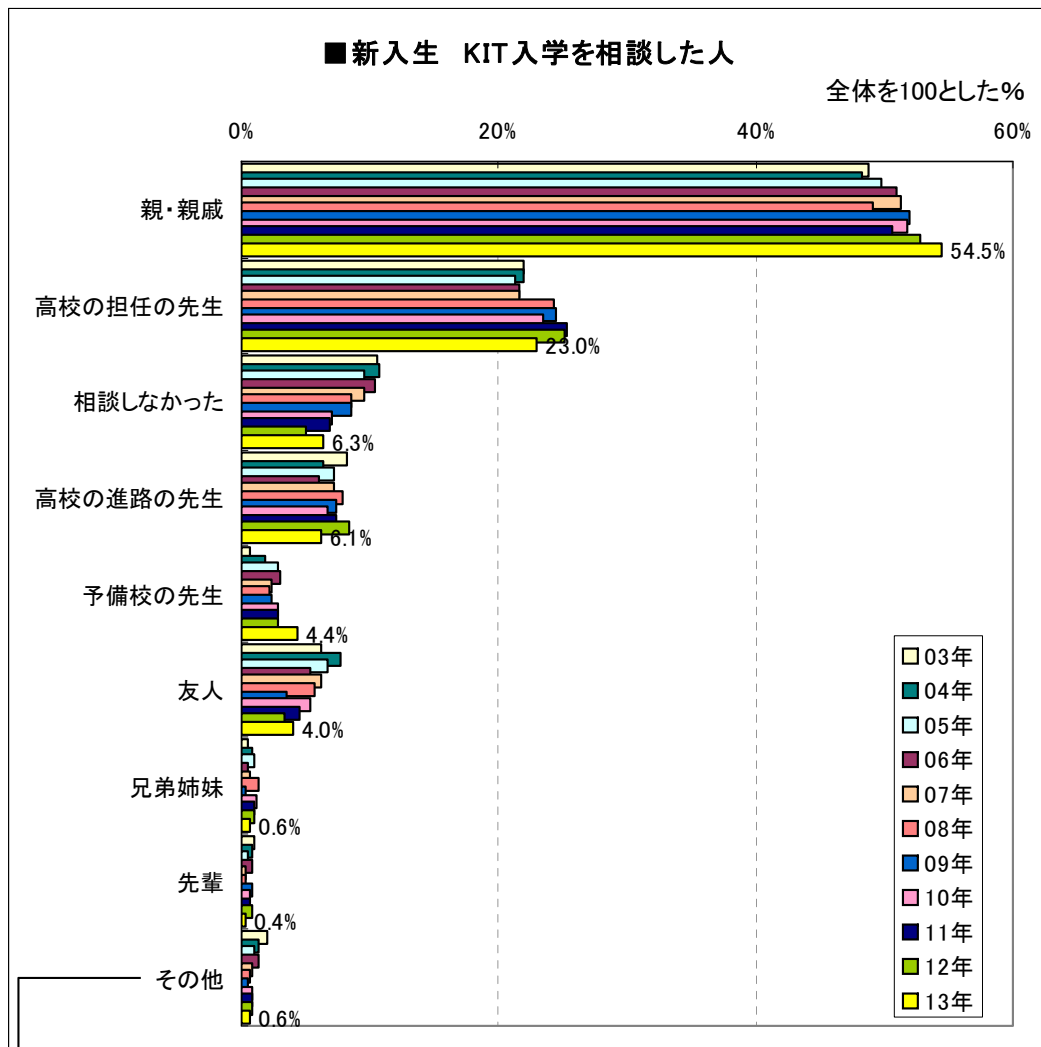


■新入生 KITを知るために使った媒体比較



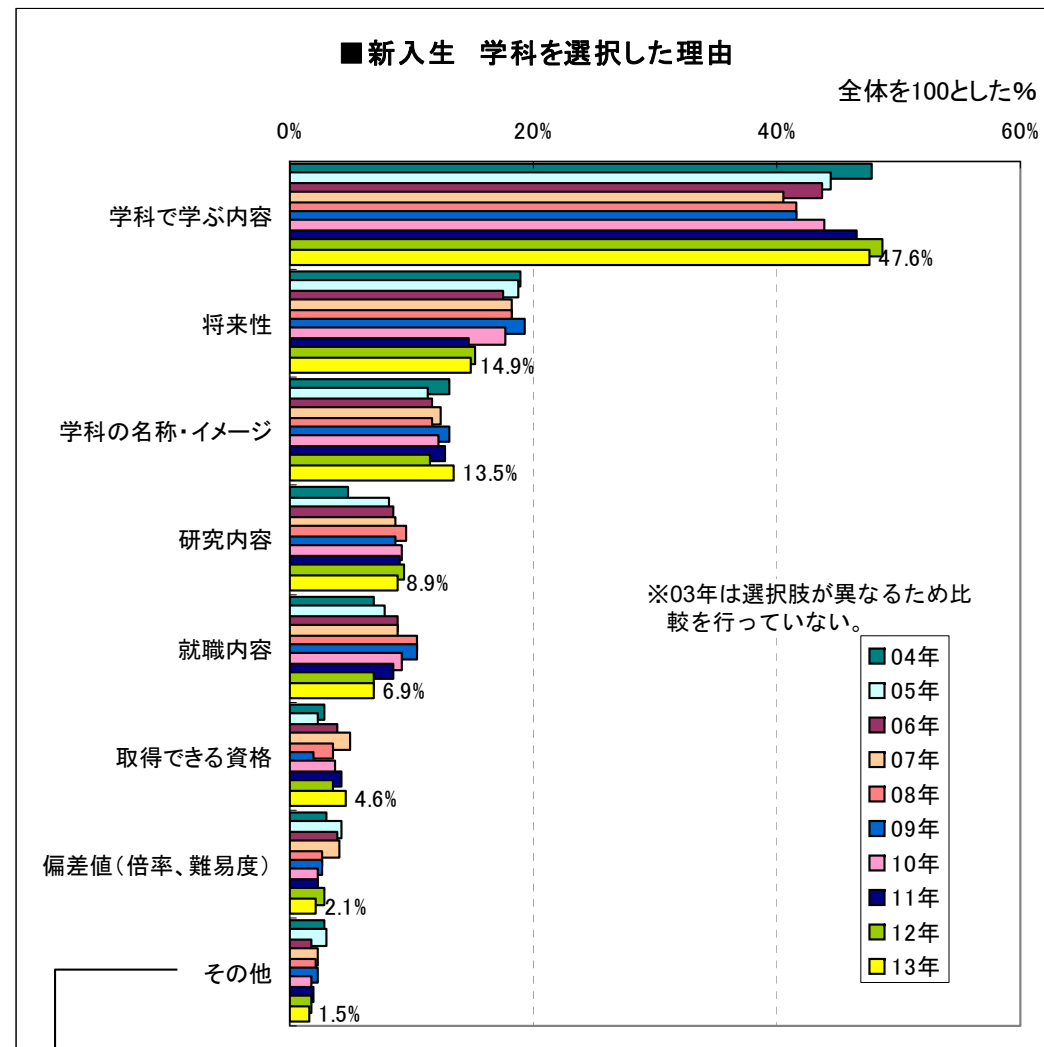
■その他の情報源 (主なもの)

KITから教育実習生	兄にきいた。
KITに進学された先輩	工大祭
Yahoo知恵袋	高校の担任
インターネット評価	高校への出張授業
おじに教えてもらった	塾
ネット掲示板	親からのすすめ
パスナビ	親が雑誌の記事をみつけた
ネットサーフィン	親戚から教えてもらった
マイナビジョン	身内が学生であった
マイナビネット	人からの紹介
ロボット展示会	先輩に聞いた
家族	部活で練習試合をした
教師からのすすめ	友達から
教頭先生からの紹介	予備校での紹介



■ その他の相談相手

KIT出身の先生	高校の専門学科の先生達
以前工業系の学校で先生をしていた高校の先生	高校の専門教科の先生
家庭教師	歳の離れた知り合い。
家庭教師の先生	塾の教師
個人経営塾の先生	塾の先生
高校の時の塾の先生	〇〇教授

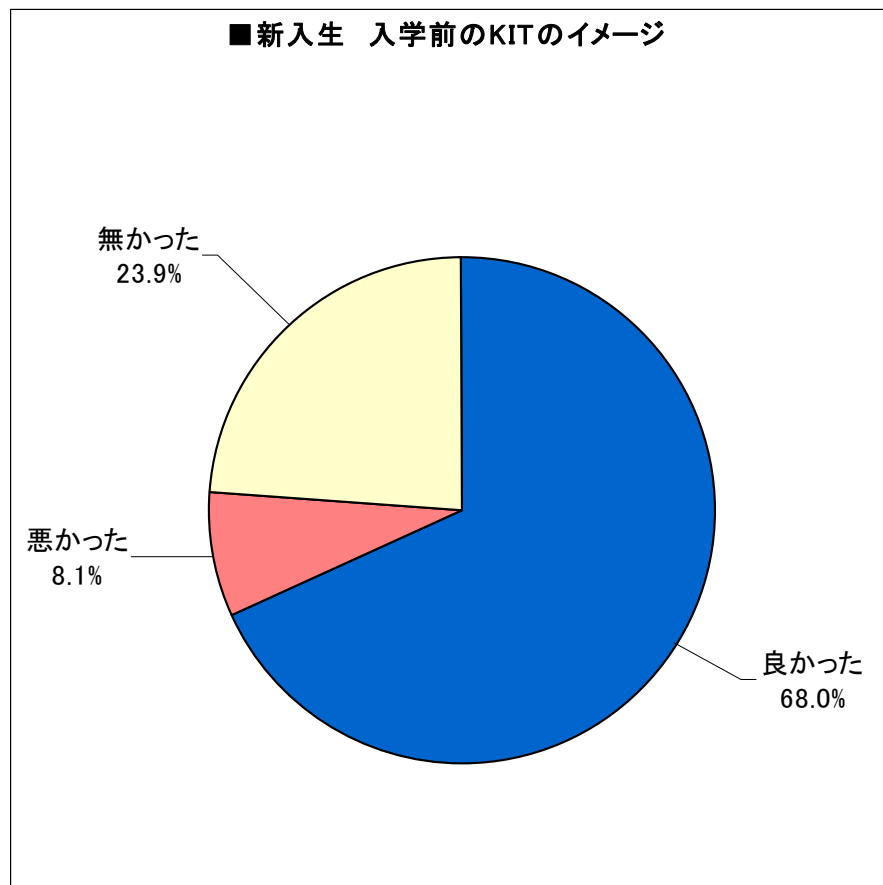


■ その他の学科選択理由

1番やってみたかった	自分のやりたいことを2つ出来るから
そこしか合格できなかったから。	自分の興味から
やりたいのがここだったから	自分の専門が電気だったから
化学が好きだったから	自分の夢が建築士のため。
家の近くの大学のOCに行ってみて	自分の夢を実現するため
機械工が落ちたときのため	親が入るように言ったため
興味があった	父親の影響
月見光路プロジェクトへの参加	面白そうな大学だったから
高校の延長	友人に受かりやすいと聞いたため
高校の学科と同じだから	

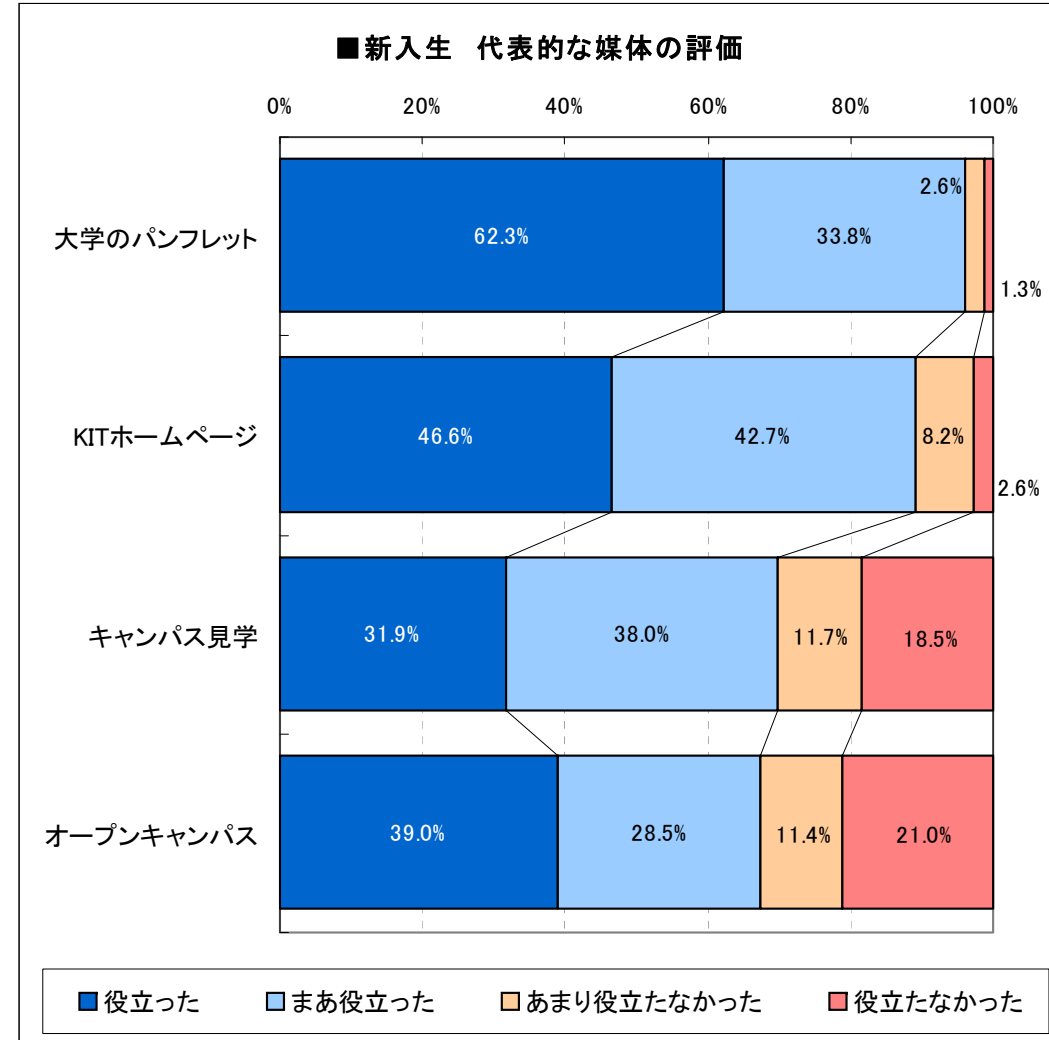
■入学前のKITのイメージ

- 入学前のKITのイメージでは、「良かった」が68.0%であり、「悪かった」が8.1%、「無かった」が23.9%であり、イメージは良かったものの「無かった」が全体の1/4を占めている点は課題だと思われる。
- 今回から選択肢を3つに変更したため、経年変化は見えていない。



■ 代表的な媒体の評価

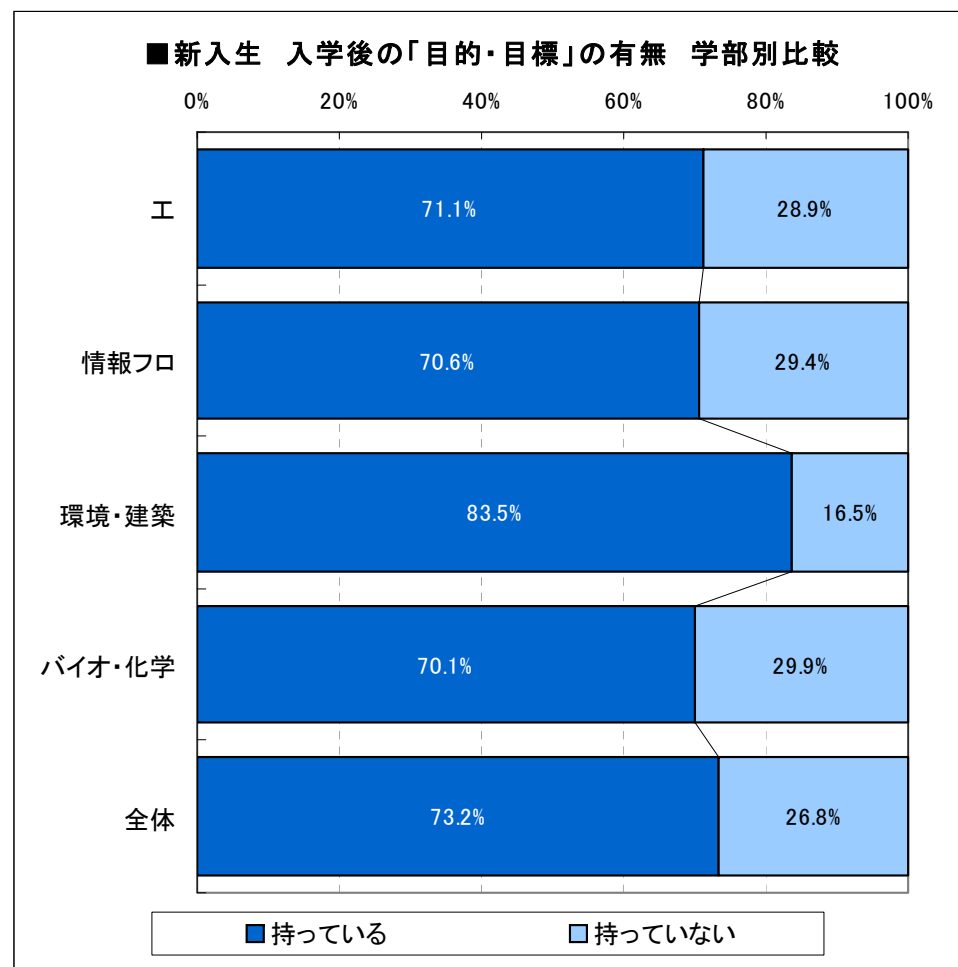
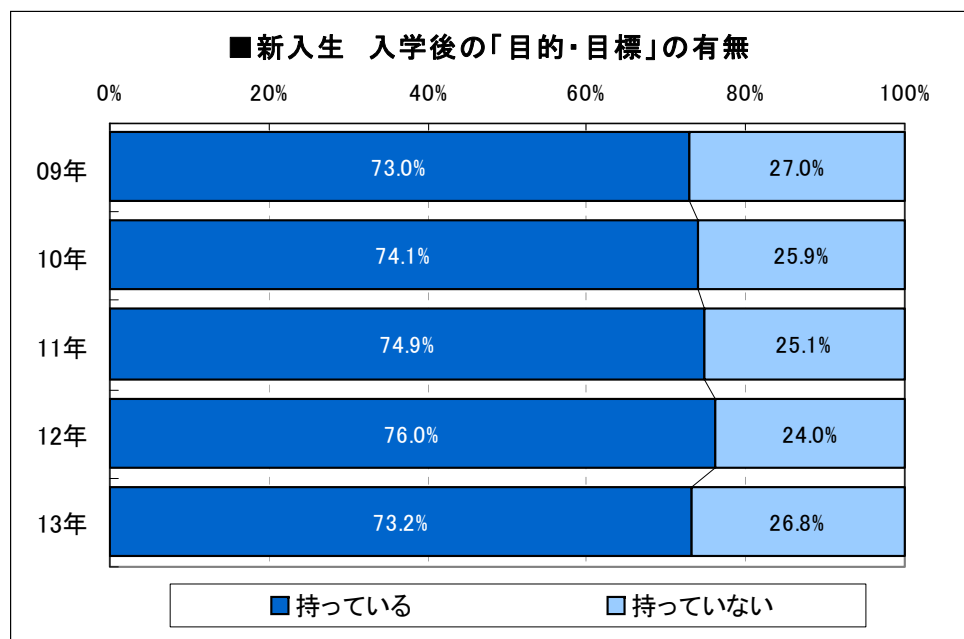
- KITの代表的な4つの媒体についての評価を確認したところ、「大学のパンフレット」では62.3%が「役立った」と答えており、「まあ役立った」の33.8%を加えると96.1%が肯定的な評価をしていた。
- 「KITホームページ」の評価も高く、「役立った」が46.6%、「まあ役立った」が42.7%であり、9割近くが肯定的な意見であった。
- 「キャンパス見学」と「オープンキャンパス」は肯定的な意見の合計では各々69.9%、67.5%と似た数値であったが、「役立った」だけを比べると「オープンキャンパス」の方が評価が高いと言える。
- 今回から「参加、活用せず」という選択肢をなくした影響も出たかと思われるが、「キャンパス見学」と「オープンキャンパス」では「役立たなかった」という回答が2割ほど見られた。これが本当に「役立たなかった」という意味合いであれば見直しが必要と言えるが、そのあたりも考慮して詳細を探る必要があると思われる。
- 上記のような理由から経年変化は集計していない。



<10-4>入学後の目的・目標、期待に関して

■入学後の目的・目標の有無

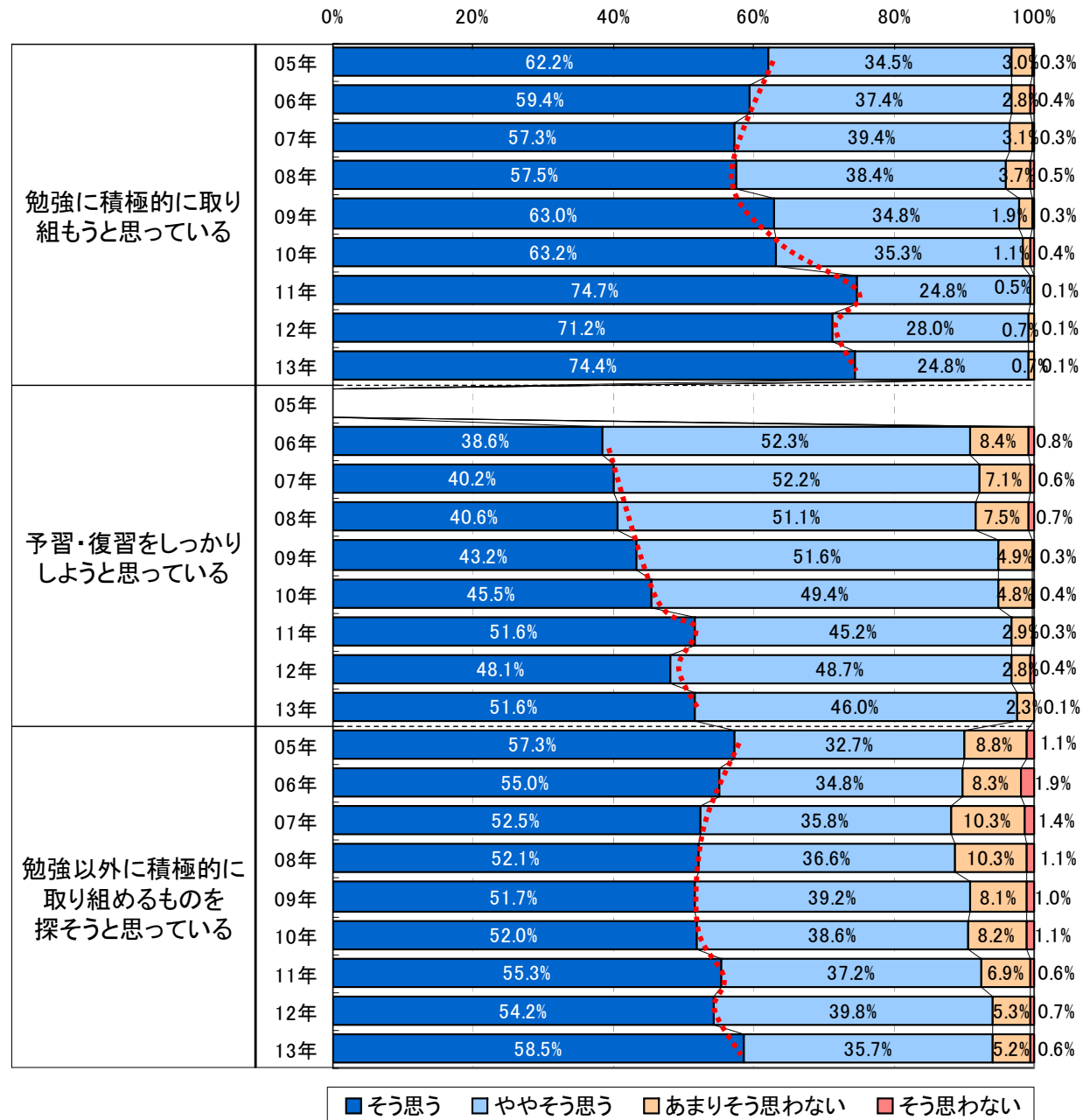
- 「大学に入ってからこれがやりたいという目的・目標を持っていますか？」という質問に対しては、「持っている」という回答が73.2%であった。2009年から2012年までは「持っている」が増加していたが、今回はわずかに前を下回っていた。
- 「目的・目標」の有無を学部別に比べると、「環境・建築」で「持っている」が83.5%であり突出していた。その他の学部にはほとんど差が見られず、「工」で71.1%、「情報フロンティア」で70.6%、「バイオ・化学」で70.1%となっていた。



■KITへの期待、心構え

- 「勉強に積極的に取り組もうと思っている」という質問では、「そう思う」が74.4%、「ややそう思う」が24.8%であり、合わせると99.2%が肯定的な意見であった。これまでと比較すると、前回よりも「そう思う」が増加して2011年と同じレベルになっており、勉強に対しては積極的な状態を保っていると言える。
- 「予習・復習をしっかりとやっている」も「そう思う」が51.6%、「ややそう思う」が46.0%で肯定的な意見が97.6%とこれまでで最も高くなっていた。「そう思う」という回答は2011年と同じだが、過去最高となった。
- 「勉強以外に積極的に取り組めるものを探そうと思っている」では「そう思う」が58.5%とこれまでで最も高く、「ややそう思う」を加えると94.2%が肯定的な意見であった。
- 上記の3つの指標を見ると、新入生は色々な面で非常に積極的に取り組もうという気持ちを持って入学してきており、わずかではあるが積極性が強くなる傾向が見られた。

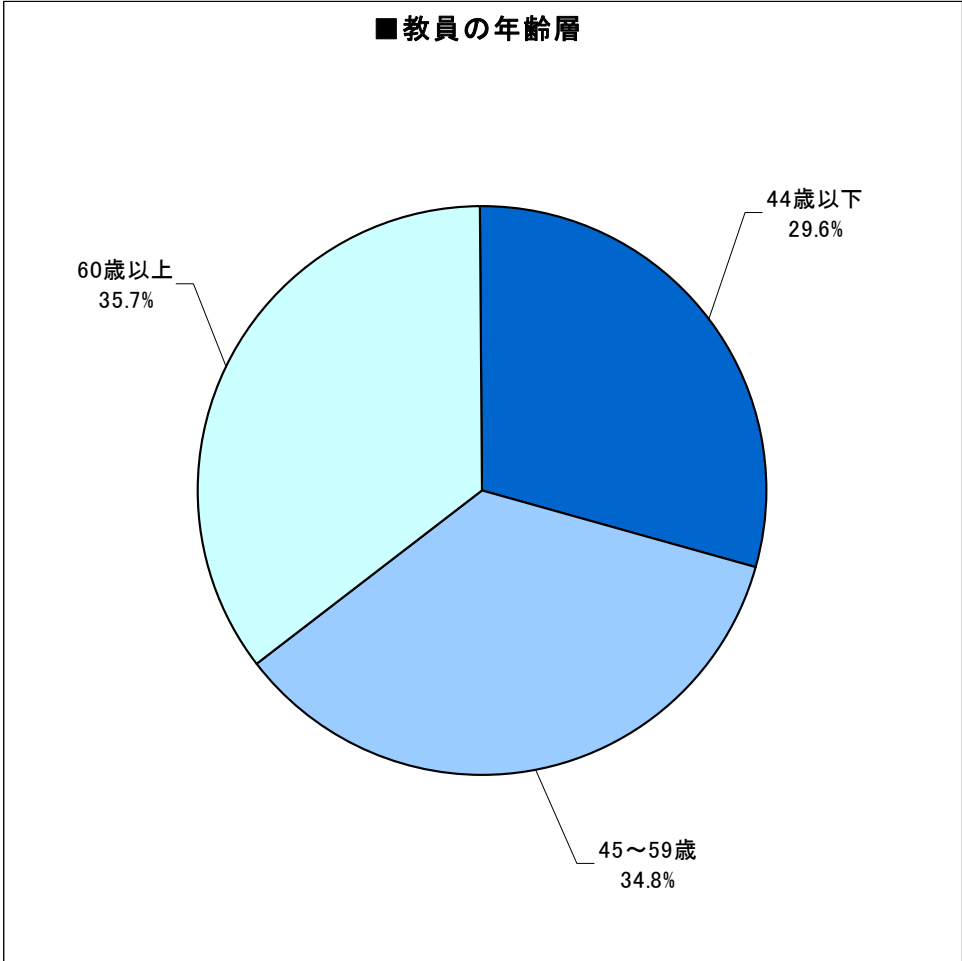
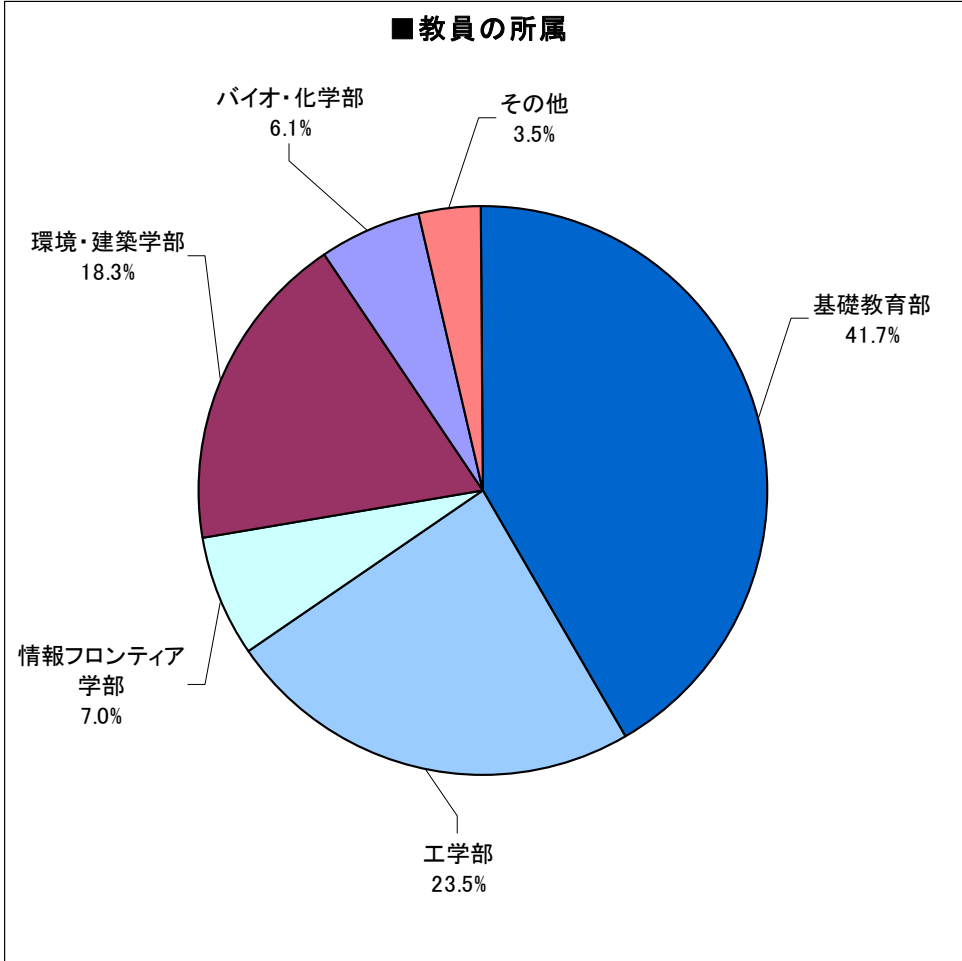
■新入生 KITへの期待、心構え



<11-1>教職員の基本属性

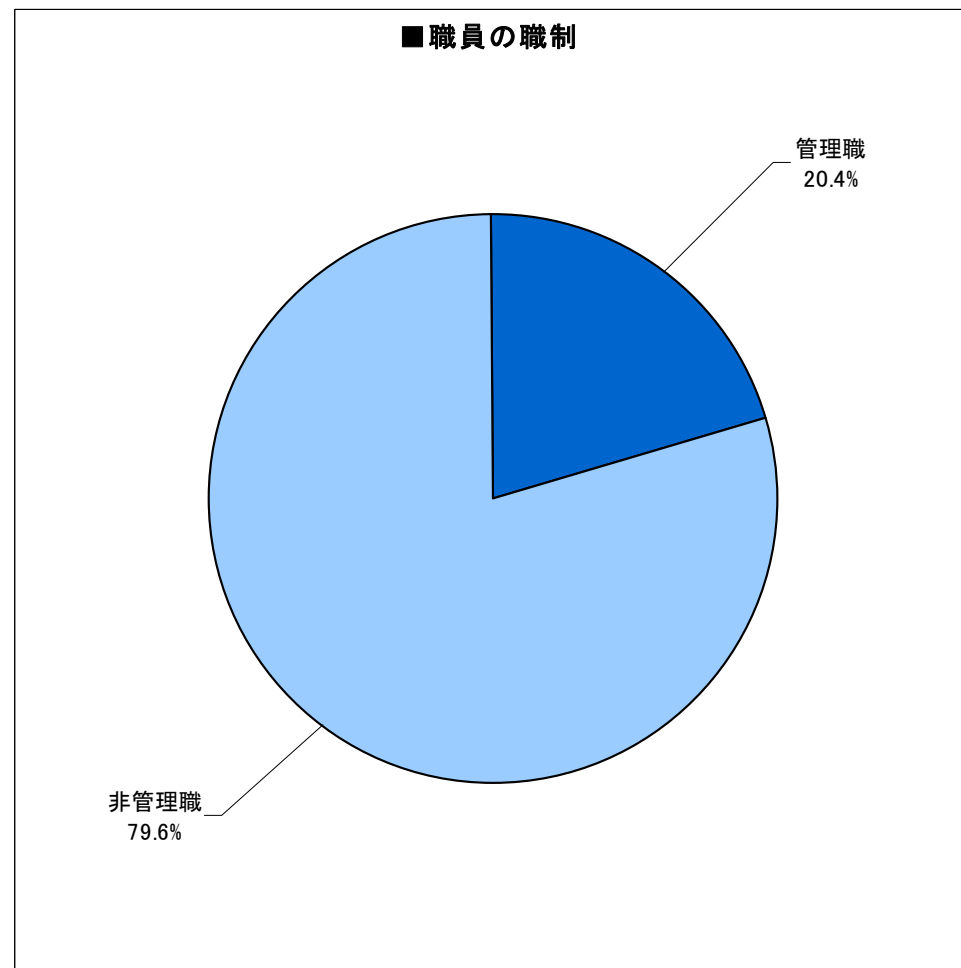
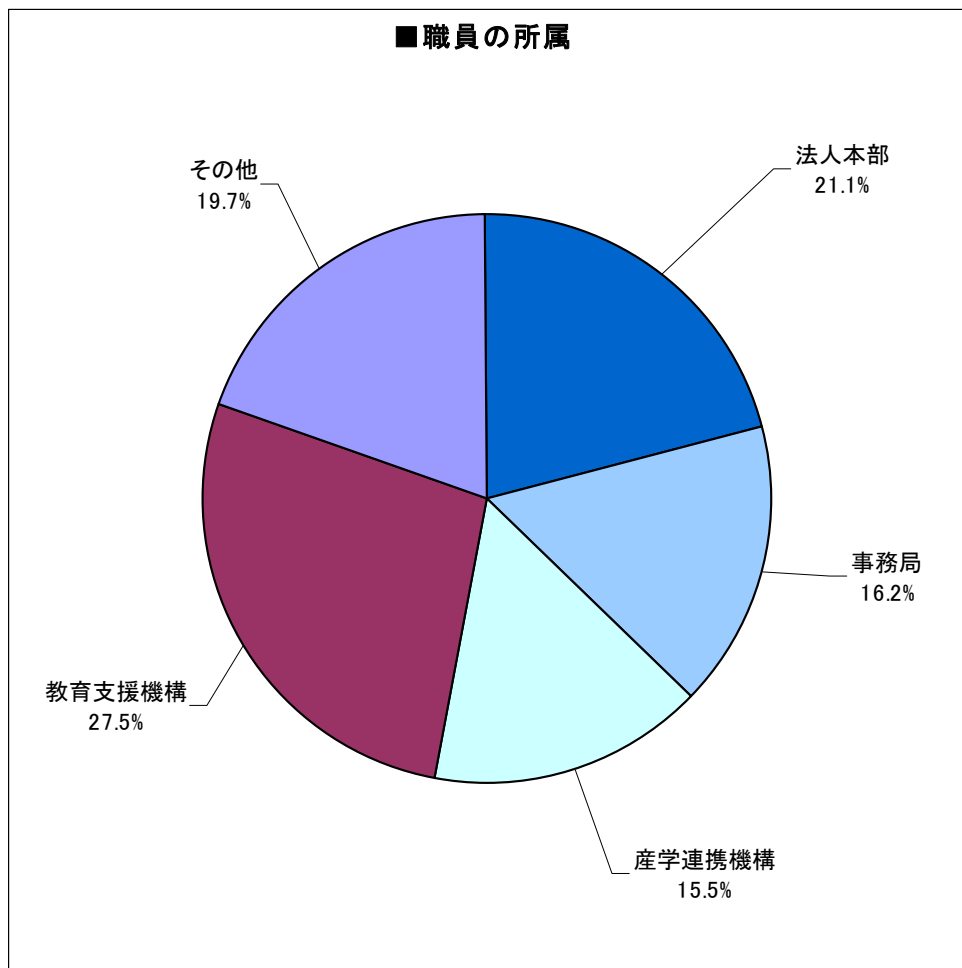
■教員の基本属性

- 「教員の所属」は今回から選択肢を見直しているが、「基礎教育部」が41.7%で半数近くを占めており、「工学部」が23.5%、「環境・建築学部」が18.3%、「情報フロンティア学部」が7.0%、「バイオ・化学部」が6.1%と続いていた。
- 「教員の年齢層」は今回新設した質問であるが、「44歳以下」が29.6%、「45歳～59歳」が34.8%、「60歳以上」が35.7%であり、この年齢区分では各々が1/3を占める状態であった。



■ 職員の基本属性

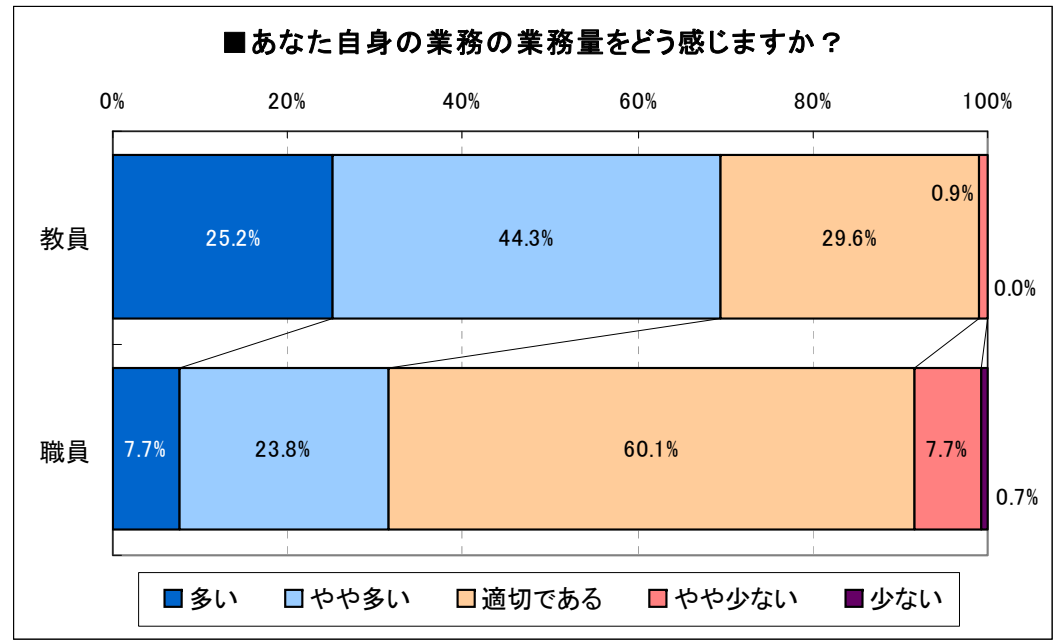
- 「職員の所属」では「教育支援機構」が27.5%と最も多く、次いで「法人本部」が21.1%、「事務局」が16.2%、「産学連携機構」が15.5%という割合であった。
- 職員に対しては「職制」を聞いているが、「管理職」が20.4%、「非管理職」が79.6%であった。



<11-2>業務の状況に関して

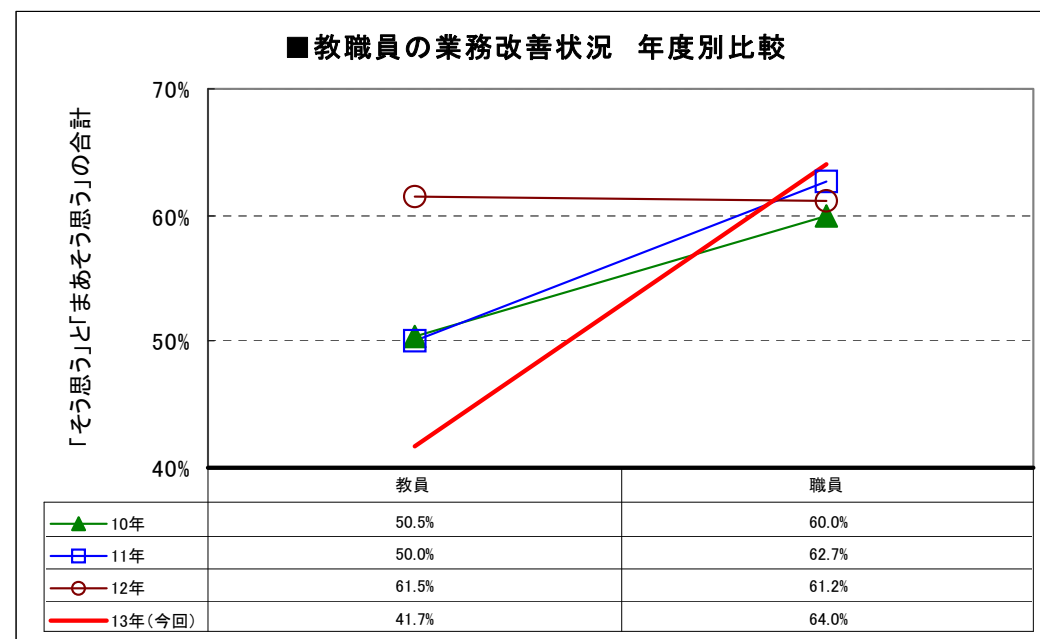
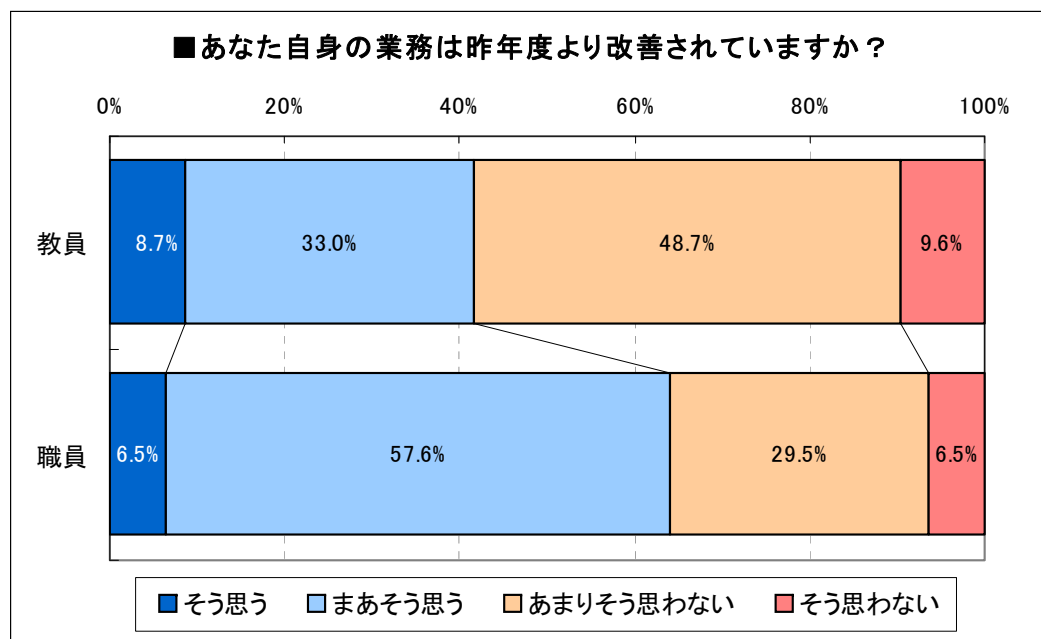
■自分自身の業務量

- 今回から「あなた自身の業務量をどう感じますか？」という質問を加えたが、「教員」に関しては25.2%が「多い」、44.3%が「やや多い」という回答であり、合わせると69.5%が業務の量が多いと感じているということが分かった。
- 「職員」に関しては「多い」が7.7%、「やや多い」が23.8%であり、業務の量が多いと感じている割合は31.5%にとどまり、60.1%は「適切である」という回答であった。



■自分自身の業務改善状況

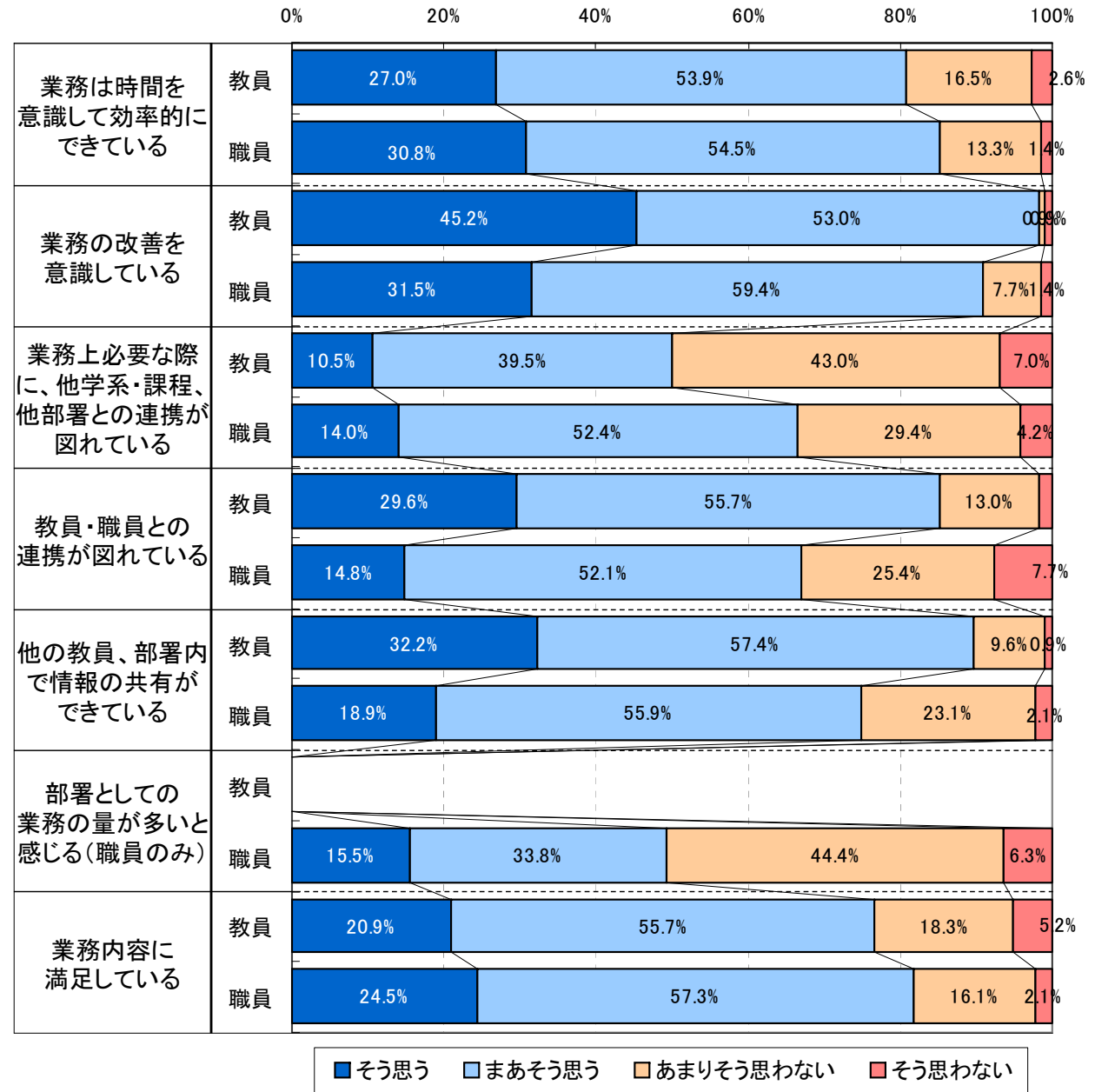
- 「あなた自身の業務は昨年度より改善されていますか？」に対して、「教員」は8.7%が「そう思う」、33.0%が「まあそう思う」であり、合わせると41.7%が業務の改善を感じているという回答であった。
- 「職員」では6.5%が「そう思う」、57.6%が「まあそう思う」であり、合わせると64.1%が改善を感じており、「教員」とは22.4ポイントの差がついていた。
- 年度別の比較では、2012年には「教員」と「職員」の間に差は見られなかったが、今回は「教員」の肯定的な意見が過去最低となっており、大きな意識の変化が見られた。一方、「職員」はこれまでと大きな変化は見られず、わずかではあるが肯定的な意見が過去最高となっていた。



■自分自身の業務状況

- 教職員に自分自身の業務の状況を聞いたところ、右のグラフのようになった。
- 最初に「業務内容に満足している」を見ると、「教員」では「そう思う」が20.9%、「まあそう思う」が55.7%で、合わせると76.6%が満足という回答であった。そして、「職員」では「そう思う」が24.5%、「まあそう思う」が57.3%で、合わせると81.8%であり、「職員」の方が5.2ポイント上回っていた。
- 「業務は時間を意識して効率的にできている」「業務の改善を意識している」の2項目は「教員」「職員」ともに8割以上が肯定的な意見であり、次いで「教員・職員との連携が図れている」「他の教員、部署内で情報の共有ができている」の2項目は7割前後が肯定的な意見であった。一方、「業務上必要な際に、他学系・課程、他部署との連携が図れている」は教員が5割、職員が6割強と、他の項目に比べて低さが目立ち、この点が課題と言える。また、「部署としての業務の量が多いと感じる」は「職員」だけの回答であるが、肯定的な意見は半数程度であった。
- 「教員」と「職員」の差の大きかったものを見ると、「教員・職員との連携が図れている」「他の教員、部署内で情報の共有ができている」の2項目は「教員」の方が肯定的な意見が多く、「業務上必要な際に、他学系・課程、他部署との連携が図れている」では「職員」の方が肯定的な意見が多かった。

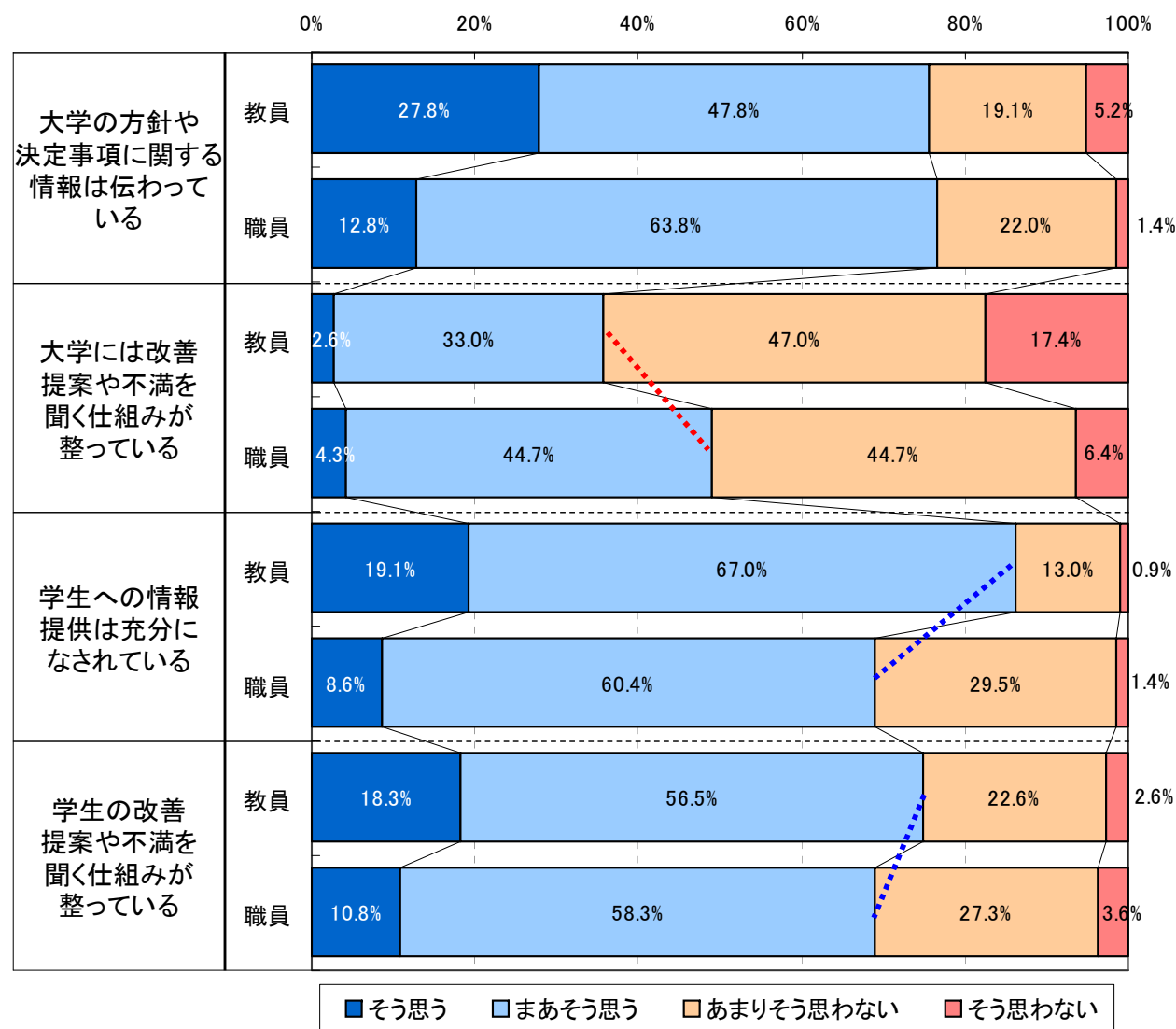
■自分自身の業務状況



■大学全体の業務改善の進捗状況

- 大学の改善への取組状況を聞いたところ、右のグラフのようになった。
- 「そう思う」と「まあそう思う」の合計で比較すると、「大学には改善提案や不満を聞く仕組みが整っている」に関しては「職員」の方が評価が高く、49.0%が肯定的な回答をしていたが、「教員」では35.6%にとどまっていた。
- 一方、「学生への情報提供は充分になされている」と「学生の改善提案や不満を聞く仕組みが整っている」では「教員」の方が肯定的な意見が多かった。
- 「大学の方針や決定事項に関する情報は伝わっている」について、「そう思う」と「ややそう思う」の合計で見ると「教員」と「職員」はほぼ同じ割合であったが、「そう思う」だけで比較すると「教員」の方が多く、「職員」は「大学の情報が伝わっていない」という意識がやや強いようであった。

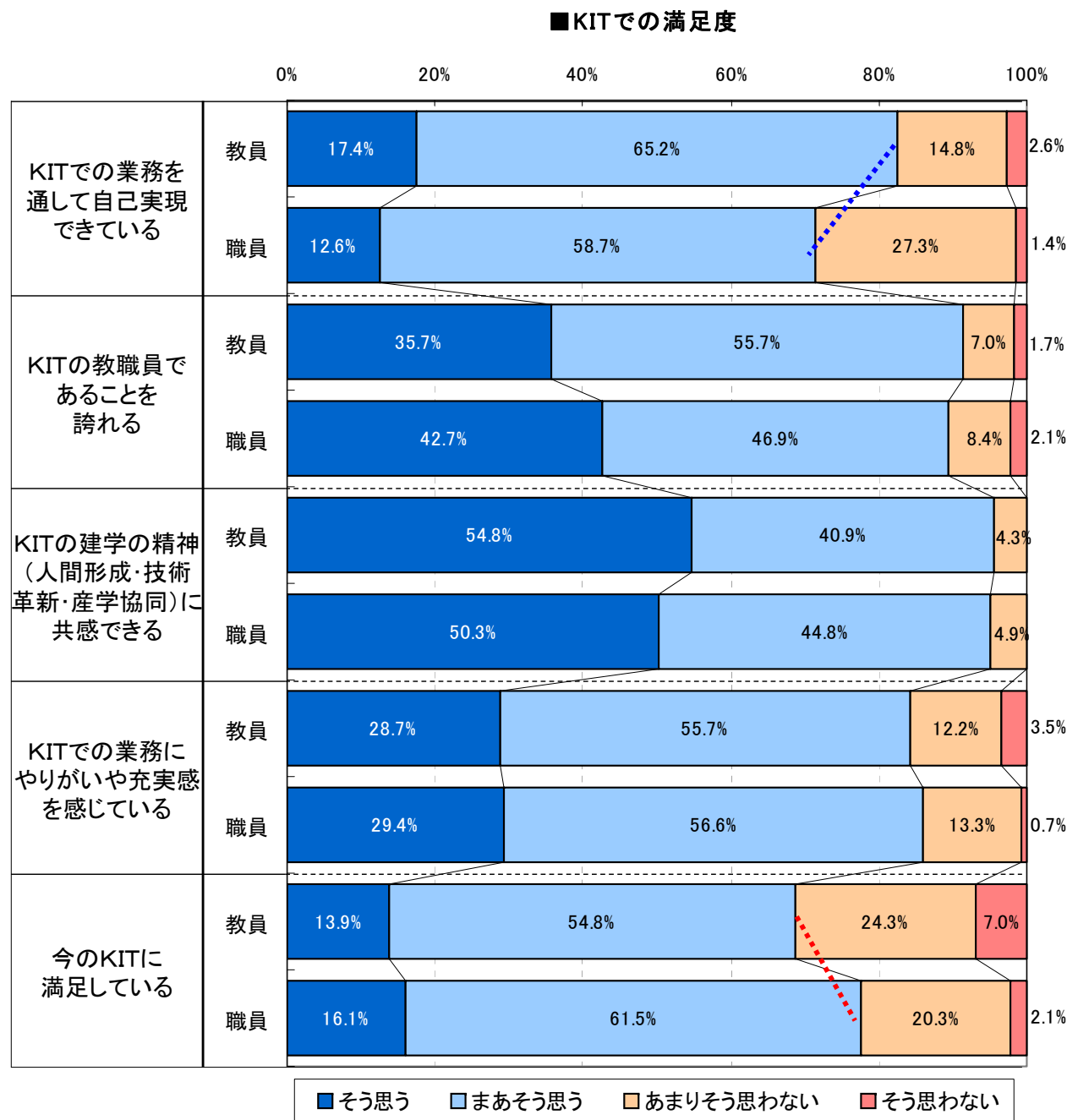
■大学の改善への取組状況



<11-3>KITでの満足度

■KITでの満足度

- KITでの満足度に関しては、5つの項目を聞いた。「KITでの業務にやりがいや充実感を感じている」は今回から新たに追加した質問となる。
- まず、総合的な評価である「今のKITに満足している」を見ると、「教員」では肯定的な意見が68.7%、「職員」では77.6%であり、「職員」の満足度の方が8.9ポイント高かった。
- 「教員」と「職員」の間で差が見られたのは「KITでの業務を通して自己実現できている」であり、肯定的な意見は「教員」の82.6%に対して、「職員」は71.3%であった。
- 「KITの教職員であることを誇れる」「KITの建学の精神(人間形成・技術革新・産学協同)に共感できる」の3項目は「教員」と「職員」との間にそれほど差がなかったが、「そう思う」という回答だけで比較すると、「KITの教職員であることを誇れる」は「職員」の方が高く、「KITの建学の精神(人間形成・技術革新・産学協同)に共感できる」は「教員」の方が高かった。



継続的な改善活動のために!

在学生・卒業生・教職員

2013 KIT総合アンケート調査結果[報告書]

■発行日	平成25年11月1日
■発行者	学校法人 金沢工業大学
■調査票設計・分析	有限会社 アイ・ポイント
■編集	金沢工業大学企画部CS室

無断複製厳禁